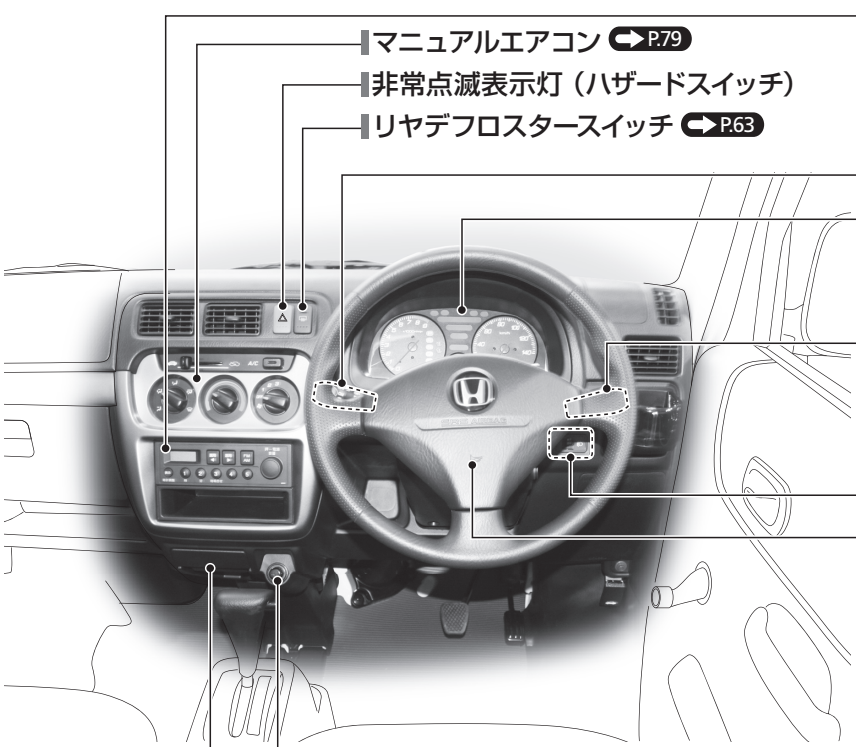
HONDA

Acty Van

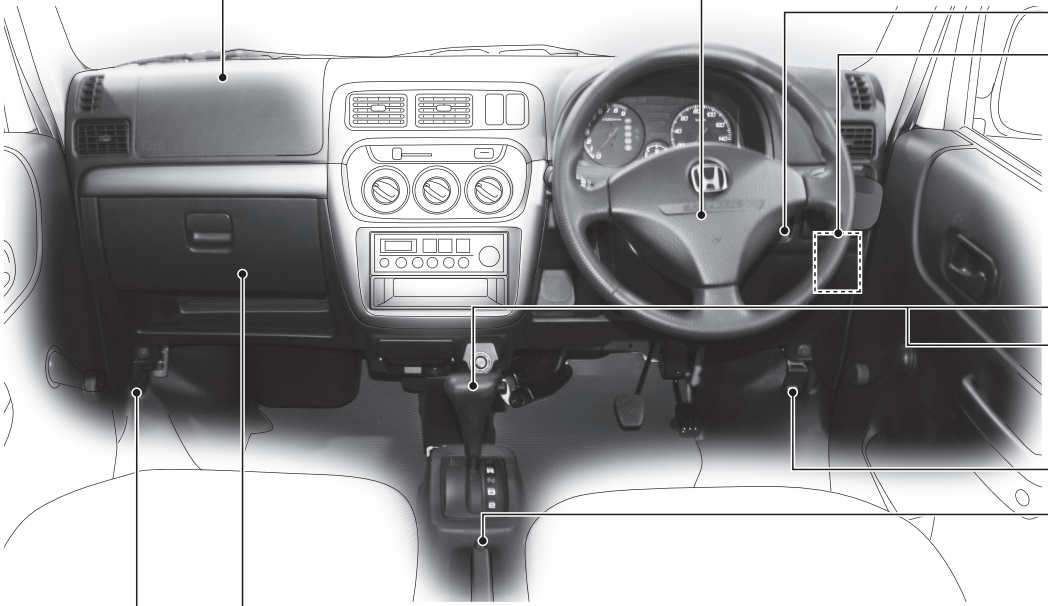
オーナーズマニュアル

クイックガイド
安全なドライブ
計器の見かた
各部の操作
オーディオ
運転
メンテナンス
万一の場合には
資料
索引

ビジュアル目次



AM/FM ラジオ P.85
マニュアルエアコン P.79
非常点滅表示灯（ハザードスイッチ）
リヤデフロスタースイッチ P.63
ワイパー / ウォッシャースイッチ P.60
メーター P.42
表示灯 P.41
警告灯 P.38
ライト / 方向指示器（ウィンカー）スイッチ P.59
ヘッドライトレベリングダイヤル P.62
ホーンスイッチ（周辺）
シガレットライター P.74
灰皿 P.74



SRS エアバッグシステム（助手席用） P.25

SRS エアバッグシステム（運転席用） P.25

エンジンスイッチ P.58

運転席足元ヒューズボックス P.165

チェンジレバー ✤ P.102

セレクトレバー ✤ P.98, 100

ボンネット解除ノブ P.118

パーキングブレーキ P.104

グローブボックス P.72

発炎筒 P.146

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

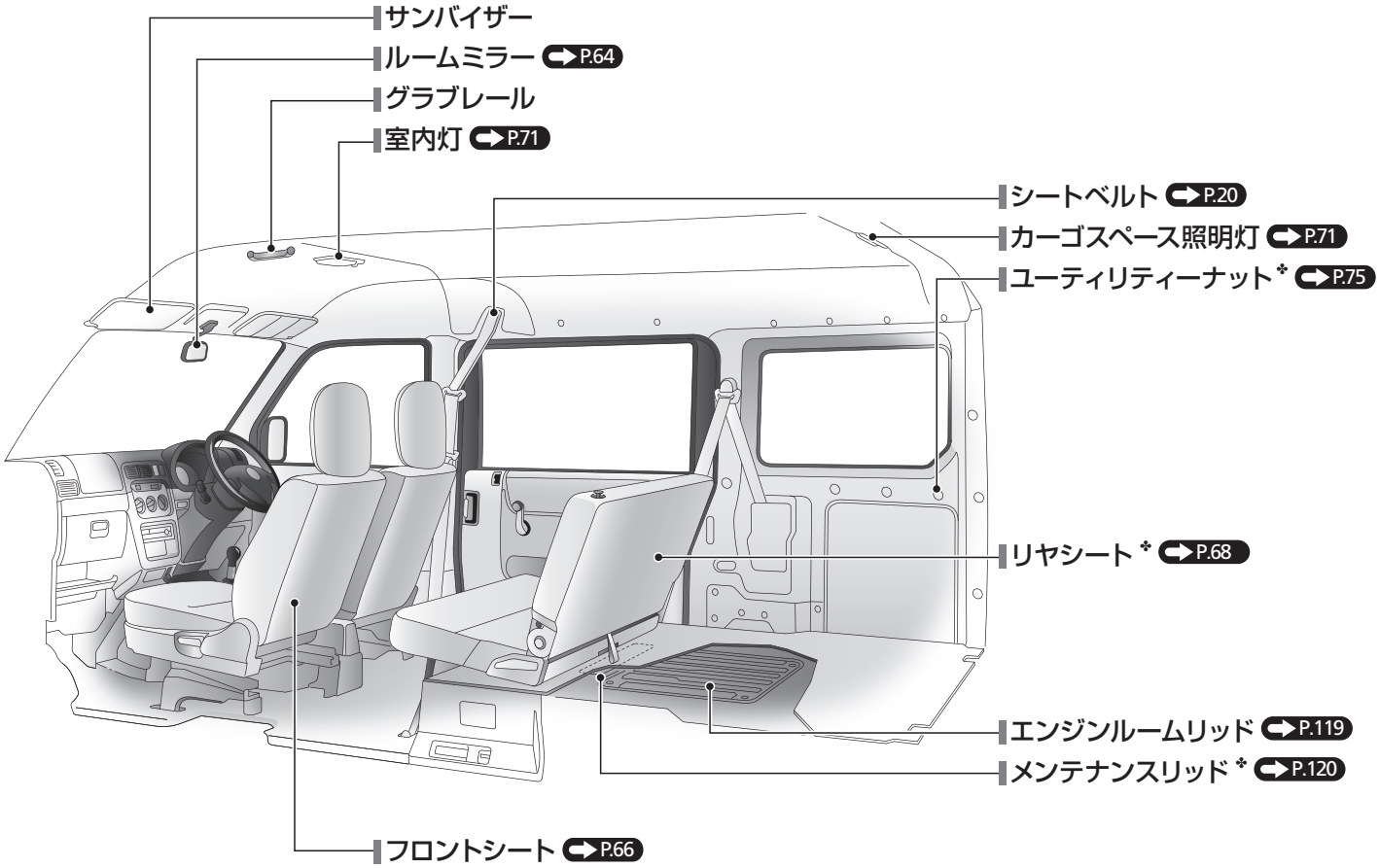
ビジュアル目次



アンテナ P.84
ボンネット内とその他のメンテナンス P.116
ワイパー P.60,130
ヘッドライト P.59,123
ドアミラー P.64
ドアの施錠 / 解錠 P.47
タイヤ P.133,147



リヤワイパー P.61,130
ハイマウントストップランプ P.128
テールゲートの開閉 P.52
給油のしかた P.109
ウィンカー P.59,125,126
制動灯 / 尾灯 P.126
後退灯 P.126



✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

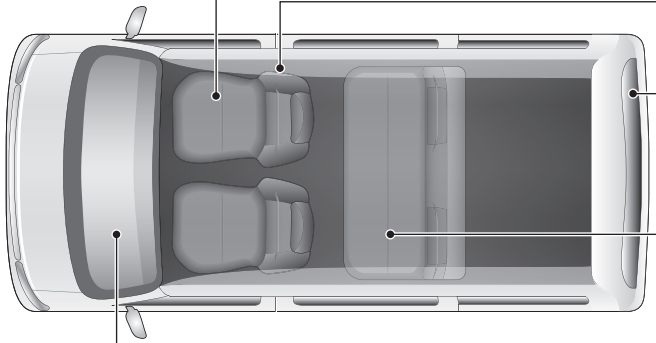
安全なドライブ P.18



- 正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
- 妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

運転を始める前の確認 P.19

- 運転前にフロントシートの位置、ヘッドレスト、ミラー類の角度を調節します。



シートベルト P.20

排気ガスについて P.36

- 車の排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、ガレージなどの密閉された場所ではエンジンを始動しないでください。

お子さまの安全 P.30

- お子さまは後席のある車に乗せてください。
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。

エアバッグ P.25

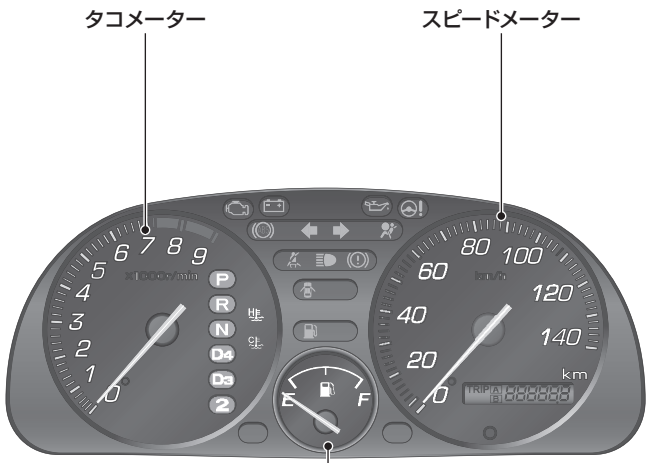
- 万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。

計器の見かた P.37

警告灯 P.38
表示灯 P.41
メーター P.42

警告灯 / 表示灯

- ブレーキ警告灯
- 油圧警告灯
- PGM-FI 警告灯
- 充電警告灯
- シートベルト非着用警告灯
- 燃料残量警告灯
- ABS 警告灯✤
- エアバッグシステム警告灯
- ドア開閉警告灯
- EPS 警告灯
- 高水温警告灯



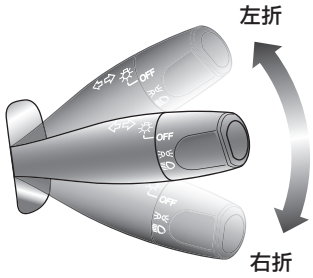
警告灯 / 表示灯

- 方向指示器表示灯
- ハイビーム表示灯
- 低水温表示灯
- セレクトポジション表示灯✤

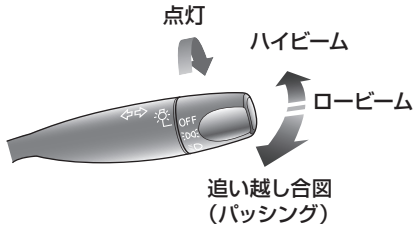
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

各部の操作 P.45

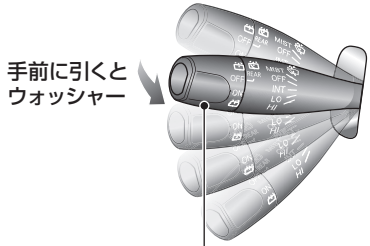
ウィンカー P.59



ライト P.59



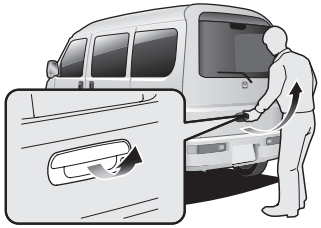
ワイパー P.60



- OFF　停止
- INT　間欠（雨量が少ないとき）
- LO　低速（普通の雨量のとき）
- HI　高速（雨量の多いとき）

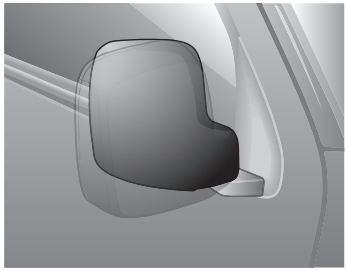
テールゲート P.52

●テールゲートは、テールゲートハンドルを引いて開きます。

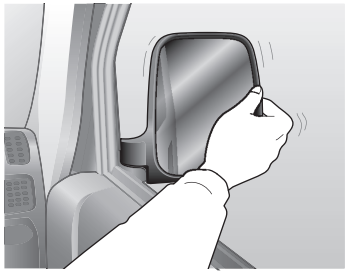


ドアミラー P.64

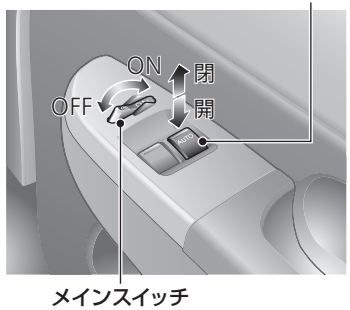
●左右のドアミラーは、手で格納することができます。



●ドアミラーの角度は、手で調節することができます。



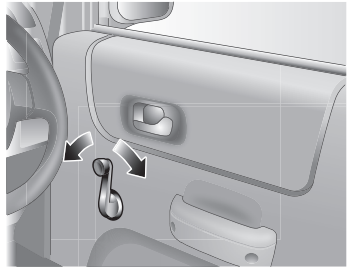
パワーウィンドー ✤ P.55



・ON　運転席、助手席のウィンドーが作動
・OFF　助手席のウィンドーが非作動

マニュアルウィンドー ✤ P.57

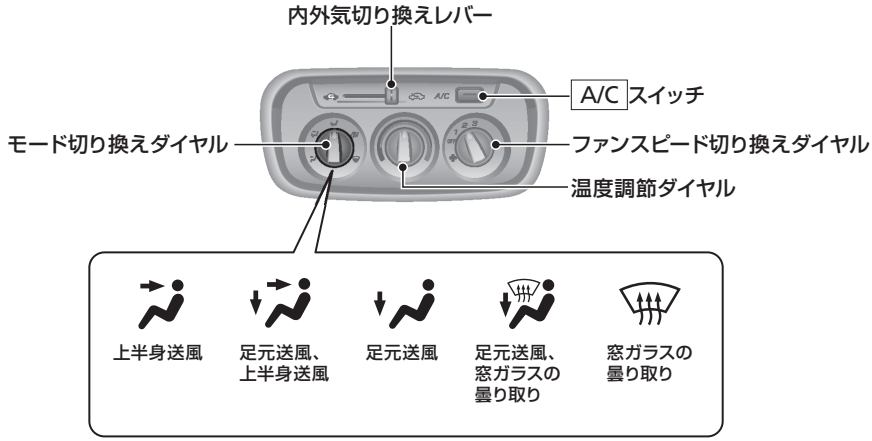
●ハンドルを回してウィンドーの開閉を行います。



✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

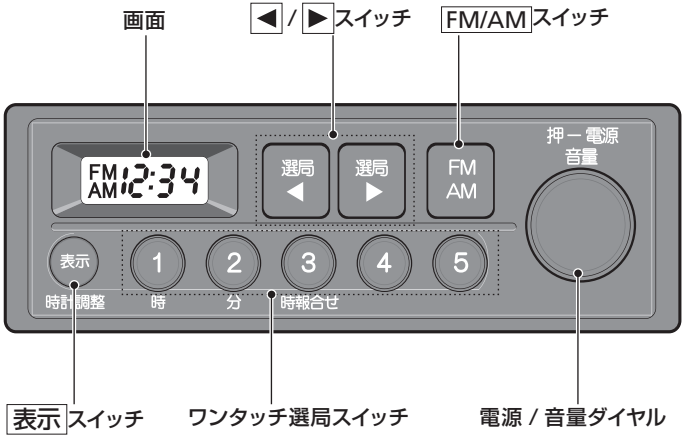
エアコン P.78

●ファンスピード切り換えダイヤルで風量を調節します。
●モード切り換えダイヤルで吹き出し口を選びます。
●温度調節ダイヤルで吹き出し風の温度を調節します。
●ファンスピード切り換えダイヤルを[OFF]にすると、止まります。
●前面ガラスの曇りを取るには、モード切り換えダイヤルを[]にします。



オーディオ P.83

AM/FM ラジオ P.85

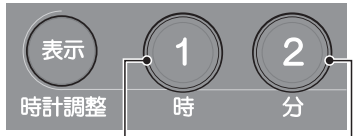


時刻を合わせる P.46

❶ オーディオの 表示 を時間が点滅するまで押す。



❷ 時刻を調整する



「時」の調整　「分」の調整



時報と同時に押す

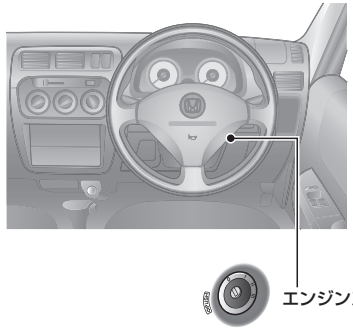
❸ 表示をもう一度押す。



運転 P.89

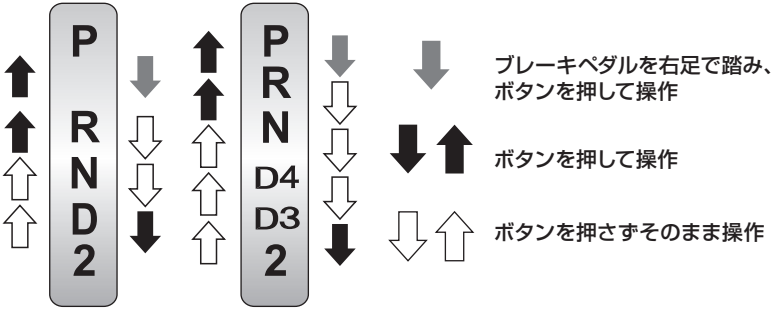
マニュアル車 P.102
オートマチック車 P.98,100

●セレクトレバーを[P]に入れ、ブレーキを踏みながらエンジンを始動します。



セレクトレバー

セレクトレバーの操作





[P] パーキング
駐車またはエンジンの始動

[R] リバース
車を後退

[N] ニュートラル
アイドリング状態

3速オートマチック車
[D] ドライブ
通常走行
[2] セカンド
2速固定

4速オートマチック車
[D4] ドライブ4
通常走行
[2] セカンド
2速固定

[D3] ドライブ3
（1速～3速まで自動変速）

ガソリンを入れる P.109

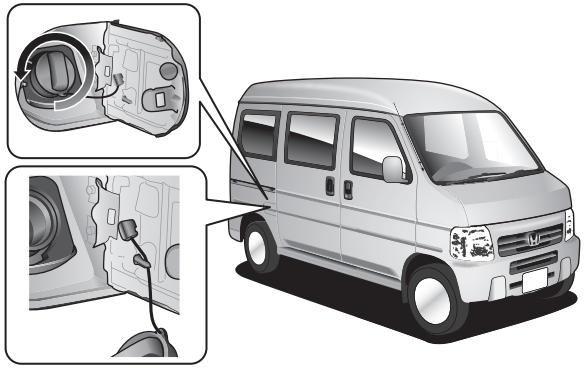
指定燃料	：無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン（E10/ETBE22）	
タンク容量	：マニュアル車 3速オートマチック車	37リットル
	4速オートマチック車	36リットル

1 フューエルリッドオープナーを後方へ押して、フューエルリッドを開ける。



2 ツマミをゆっくり回して
キャップを開ける。

3 テザーをフックにかける。



メンテナンス P.113

ワイパーブレード P.130

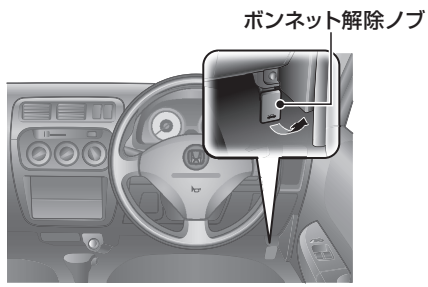
●拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。

ボンネット P.118,122,161

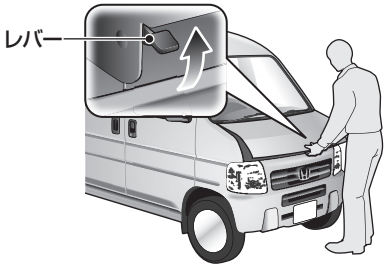
●冷却水、ウォッシャー液の補給を行います。
●バッテリーを点検します。



1 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。



2 レバーを上げ、ボンネットを開ける。



タイヤ P.133

●タイヤ、ホイールを点検します。
●降雪地域では、スノータイヤ、タイヤチェーンが必要です。

ライト P.123

●ヘッドライト、テールライト電球などの点検または交換を行います。
●電球の交換については、「メンテナンス」を参照してください。
●ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。 P.165

万一の場合には P.145

パンクした P.147

●安全な場所に停車し、スペアタイヤに交換します。



警告灯が点灯した P.162

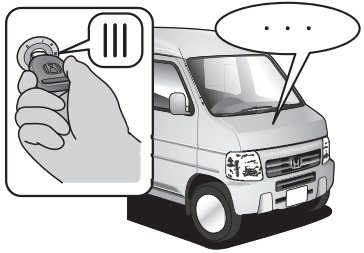
●詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



エンジンが始動しない

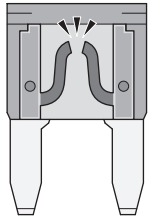
P.156

●バッテリーあがりが考えられます。救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動します。



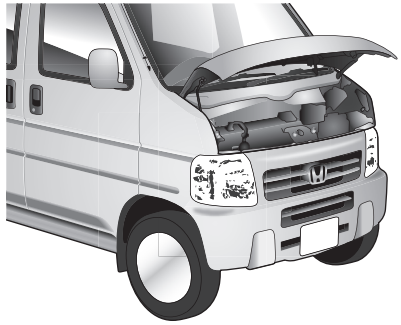
ヒューズが切れた P.165

●運転席の足元とフロントコンパートメント内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。



オーバーヒートした P.161

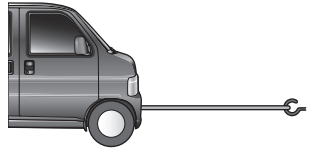
●安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければボンネットを開けてください。



けん引してもらいたい

P.168

●必ず専門業者に依頼してください。やむをえず 4 輪を接地したままけん引される場合は、取扱説明書にしたがってください。



こんなときは

Q キーが0から|に回らない

A
・ ハンドルがロックされていませんか？
ハンドルを左右に回しながら、キーを回してください。



Q キーが|から0に回らない（キーが抜けない）

A
・ セレクトレバーがP以外の位置になっていませんか？



Q ブレーキペダルを踏んだらガタガタと振動した

A
・ ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。
これは ABS* が作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

Q キーレスエントリーでドアを解錠したはずなのに施錠されている

A
・ キーレスエントリーで解錠してから、約 30 秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。



Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

A
- 「ピピピピ」と鳴るときはキーをエンジンスイッチに差し込んでいませんか？
- 「ピー」と鳴るときはライトを消し忘れていませんか？



Q 走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする

A
- ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。

Q レギュラーガソリン仕様車にプレミアム（ハイオク）ガソリンを使用しても大丈夫ですか？

A
- プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの
⚠警告	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
⚠注意	指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。
✤:タイプやオプションなどにより異なる装備を示します。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。
なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

Honda および Honda が委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

目次

安全なドライブ P.18
安全なドライブのために 19　シートベルト 20　エアバッグ 25　お子さまの安全 30
排気ガスの危険性 36

計器の見かた P.37
警告灯と表示灯 38　メーターとオド / トリップメーター 42

各部の操作 P.45
時刻の設定 46　ドア 47　テールゲート 52　スライドドア 53
ウィンドー 55　ハンドルまわりのスイッチ 58　ミラー類 64　シート 66
室内灯 / 室内装備品 71　エアコン 78

オーディオ P.83
オーディオ装置 84　AM/FM ラジオ 85

運転 P.89
運転の前に 90　運転 92　ブレーキ 104　駐停車 107
給油 109　アクセサリーと改造 112

メンテナンス P.113
メンテナンスの前に 114　ボンネット内とその他 116　電球 123　ワイパー 130
タイヤ 133　キーレスエントリー 139　エアコンのお手入れ 140　清掃 141

万一の場合には P.145
工具、発炎筒 146　パンク 147　エンジンが始動しない 156　ジャンプスタート 157
セレクトレバーが動かない 160　オーバーヒート 161　警告灯の点灯 / 点滅 162　ヒューズ 165
けん引 168

資料 P.170
仕様 : 4AT 車 171　仕様 : 5MT 車、3AT 車 172

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。



安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を
確保してください。

安全なドライブのために 19
シートベルト
- シートベルトについて 20
- シートベルトの着用 22
- シートベルトの点検 23

エアバッグ
- エアバッグの種類 25
- SRSエアバッグ 25
- エアバッグシステム警告灯 28
- エアバッグのお手入れ 29

お子さまの安全 30
- 乳幼児の安全 31
- 大きなお子さまの安全 34

排気ガスの危険性 36
- 一酸化炭素について 36

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、テールゲートは完全に閉まっているか？
  ► すべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
  ➔**車内での施錠/解錠** P.51
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
  ► 正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
  ➔**フロントシート** P.66
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか？
  ► ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
  ➔**フロントシート** P.66
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
  ► 運転者と乗員全員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
  ➔**シートベルトの着用** P.22
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
  ► エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
  ➔**エアバッグ** P.25
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
  ► お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
  ➔**お子さまの安全** P.30
- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを[P]または、チェンジレバーを上り坂の場合[1]、下り坂と平地の場合[R]にしているか？
  ► さらにタイヤに輪止めをすると効果があります。
  ➔**シフト操作** P.98, 100, 102

安全のための確認事項

ドア開閉警告灯が点灯している場合は、完全に閉まっていないドアがあります。

ドアをもう一度正しく閉め直してください。「ドア開閉警告灯」は消灯し、正常な状態に戻ります。

➔**ドア開閉警告灯** P.39

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。
すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

シートベルトについて

⚠警告

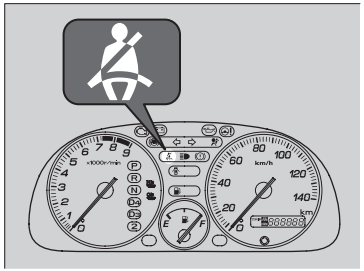
シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。
シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。
正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

■ シートベルトリマインダー



エンジンスイッチをIIにしたときや走行したとき、運転席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、警告灯でお知らせします。

■ シートベルトプリテンショナー

フロントシートにはシートベルトプリテンショナーを装備しています。
シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。



» シートベルトプリテンショナー

⚠注意

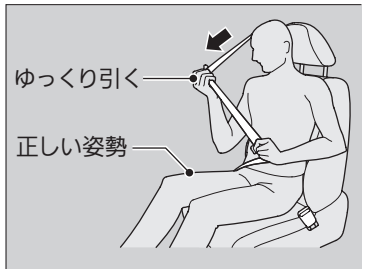
シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。
誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。
衝突したときは、Honda販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

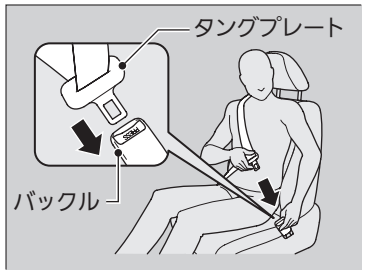
SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

シートベルトの着用

■ 三点式シートベルト



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



3. タングプレートをバックルに差し込む。
► このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないように注意します。



4. ベルトを、腰骨のできるだけ低い位置にかかるように合わせる。
5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

▨シートベルトの着用

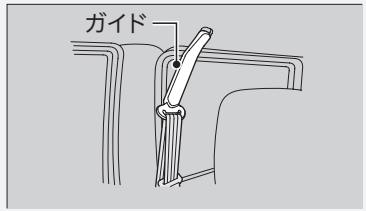
⚠注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

シートベルトを外すには、バックルの赤色の PRESS を押してください。
そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

前席のシートベルトのショルダーアンカー部のガイドを引っぱったりして、強い力をかけないでください。ガイドが変形するおそれがあります。



シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

■ 妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



シートベルトの点検

シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。
点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか?
- バックルが確実に固定されるか?
- ベルトがスムーズに巻き取られるか?

妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

⚠注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。
万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

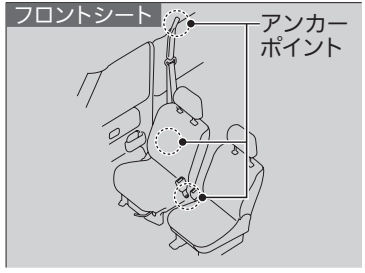
- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

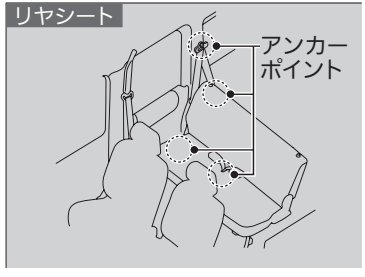
ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。
ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。
➡シートベルトの清掃 P.142

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトのアンカーポイント



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。
フロントシートには三点式シートベルトが使われています。



リヤシート装備車

リヤシートには三点式シートベルトが使われています。

エアバッグの種類

エアバッグは、エンジンスイッチがIIのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。

- **SRS エアバッグ**：フロントシートの前方向エアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメンタルレストレイントシステム（Supplemental Restraint System）の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

■ 格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

■ 作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

次ページに続く

エアバッグの種類

⚠警告

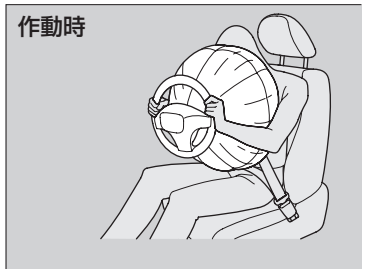
エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。
エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

■ SRS エアバッグの作動



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRS エアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRS エアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20 ～ 30km/h 以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
- 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

衝撃を吸収できるもの（車やガードレールのように変形するもの）に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

SRSエアバッグの作動

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。
SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。
- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小と SRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。
- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

SRSエアバッグの作動

⚠注意

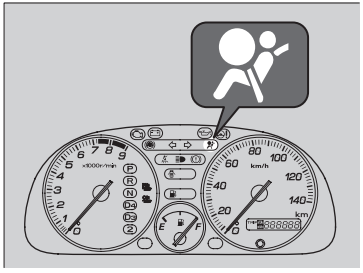
SRS エアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯で知らせます。

■ エアバッグシステム警告灯



■エンジンスイッチを II にしたとき

エンジンスイッチを II にすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■異常が発生したとき

エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるとき点灯します。

エアバッグシステム警告灯

⚠警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。
エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda販売店で点検を受けてください。
エンジンスイッチを II にしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

エアバッグが作動し、膨らんだとき

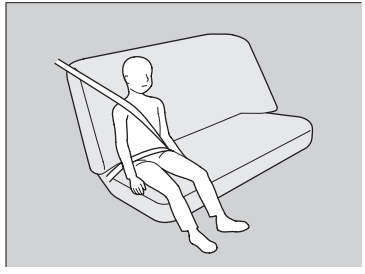
エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

お子さまの安全を守るために

お子さまはリヤシートのある車に乗せてください。

► お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。また、SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。

やむをえずお子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
  - ► お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 幼児にはチャイルドシートを使用する
  - ► やむをえず幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
  - ► 走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないように注意してください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
  - ► 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
  - ► お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまの安全を守るために

⚠警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
お子様が死亡、または重大な障害を受けるおそれがあります。

お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。
お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■ 乳児のチャイルドシート

この車に設置することはできません。

■ 幼児のチャイルドシート

助手席にチャイルドシートを設置すると、衝突したときに SRS エアバッグで強い衝撃を受けるおそれがあります。

やむをえずチャイルドシートを設置するときは、この取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

乳児のチャイルドシート

⚠警告

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

幼児のチャイルドシート

⚠警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されると SRS エアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

次ページに続く

■ チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートをお選びください。
シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の 3 つの条件を満たしている必要があります。

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
  選択の目安 P.33
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること
  UN-ECE R44 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

チャイルドシートの選びかた

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

ご購入、ご使用に際してはHonda販売店にご相談ください。

■ シートベルトで固定するチャイルドシートについて

この車には様々なタイプのチャイルドシートが利用可能ですが、 すべてのタイプが適当であるというわけではありません。
次の表を参照して、 それぞれの着席位置で、 どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

■選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ベルト固定タイプ チャイルドシート 重量区分	座席位置		
	前席 助手席	後席 左席	後席 右席
グループ0 ～10kg	X	X	X
グループ0＋ ～13kg	X	X	X
グループⅠ 9kg～18kg	UF	X	X
グループⅡ 15kg～25kg	UF	X	X
グループⅢ 22kg～36kg	UF	X	X

記号の説明

UF：汎用型チャイルドシートを前向きに備えることができることを示す。
X ：チャイルドシートを装備できないことを示す。

次ページに続く

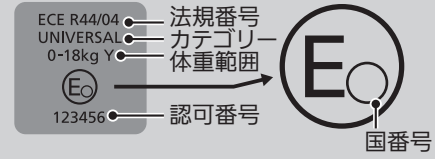
シートベルトで固定するチャイルドシートについて

チャイルドシートに関する国連の安全基準であるUN-ECE R44に適合しているチャイルドシートには、シートベルトで固定する機構が付いています。

チャイルドシートをご購入する際は、重量グループに一致したものをお選びください。

UFのチャイルドシートには、UN-ECE R44認可表示と取扱説明書にUNIVERSAL(汎用)と案内されているものもあります。

EC認可表示（例）



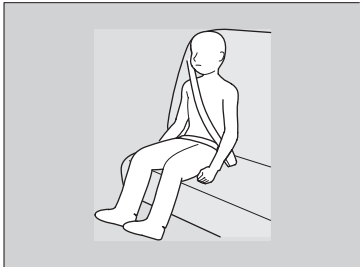
チャイルドシートの種類や取り付けの向きにより固定金具（ロッキングクリップ）が必要になる場合があります。

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

大きなお子さまの安全

■ シートの使用について

幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシート非装備車の場合はフロントシートに深くすわらせ、リヤシート装備車の場合はリヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか?
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか?
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか?
- 乗車中、無理なくすわっていられるか?

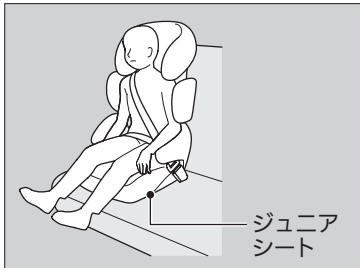
大きなお子さまの安全

⚠警告

お子さまは助手席に乗せない。
お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。
やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

やむをえずお子さまを助手席に乗せる場合は、次ページの注意事項を厳守してください。

■ ジュニアシートについて



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートを使用してください。
安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

■ やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- この取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

» ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。
以下の場合は、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

一酸化炭素について

⚠警告

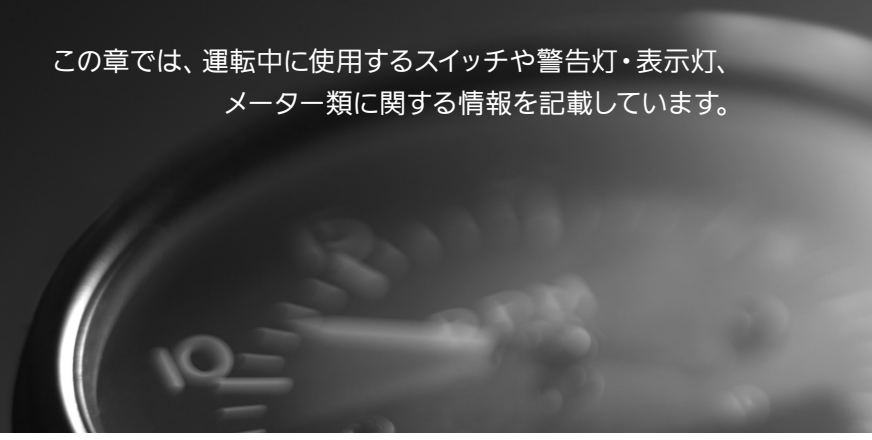
一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。
ガレージのドアを閉めたままエンジンを始動しないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にエンジンを始動してください。

計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、
メーター類に関する情報を記載しています。



警告灯と表示灯
警告灯 38
表示灯 41
メーターとオド/トリップメーター
メーター 42
オド/トリップメーター 43

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	ブレーキ警告灯	• エンジンスイッチを II にすると数秒点灯したあと、消灯（パーキングブレーキをかけているときは点灯） • ブレーキフルード量が低下したときに点灯	• 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • ABS 警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 **➔ブレーキ警告灯が点灯した** P.163
	油圧警告灯	• エンジンスイッチを II にすると点灯し、エンジン始動で消灯 • エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯	• **走行中に点灯**＝ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください。 **➔油圧警告灯が点灯した** P.162
	PGM-FI 警告灯	• エンジンスイッチを II にすると点灯し、エンジン始動で消灯 エンジンを始動していないときは数十秒後消灯 • エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 • エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	• **走行中に点灯**＝高速走行を避けてただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • **走行中に点滅**＝枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを停止して冷えるのをお待ちください。 **➔PGM-FI警告灯が点灯/点滅した** P.163
	充電警告灯	• エンジンスイッチを II にすると点灯し、エンジン始動で消灯 • バッテリーが充電されていないと点灯	• **走行中に点灯**＝電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどを OFF にし、対処してください。 **➔充電警告灯が点灯した** P.162

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	シートベルト非着用警告灯	• 運転者がシートベルトをしないと点灯 • エンジンスイッチを II にしたときや走行中、運転者がシートベルトを着用していないと警告灯が点灯	• シートベルトを正しく着用すると警告灯が消灯します。 • シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ➡**シートベルトリマインダー** P.21
	燃料残量警告灯	• 燃料の残量が少なくなると点灯 • 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ 6 リットル (4 速オートマチック車)、または 7 リットル (マニュアル車、3 速オートマチック車) になったときです。	• 点灯したら早めに給油してください。
	ABS (アンチロックブレーキシステム) 警告灯 ✤	• エンジンスイッチを II にすると数秒点灯したあと、消灯 • ABS が異常のときに点灯	• 点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ➡**ABS (アンチロックブレーキシステム)** P.106
	エアバッグシステム警告灯	• エンジンスイッチを II にすると数秒点灯したあと、消灯 • 下記のとき点灯 • エアバッグシステムの異常 • プリテンショナーシステムの異常	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	ドア開閉警告灯	• エンジンスイッチが II のときドアが完全に閉まっていないとき点灯	• ドアを完全に閉めると、警告灯が消灯します。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯	• エンジンスイッチを II にすると点灯し、エンジン始動で消灯 • EPS システムの機能に異常があると点灯	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 **➡EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯が点灯した** P.164
	高水温警告灯	• エンジンスイッチを II にすると数秒点灯したあと、消灯 • エンジンの冷却水の温度が上がると点滅し、さらに上がると点灯	• **走行中に点滅**＝ゆっくり走行してください。 • **走行中に点灯**＝ただちに安全な場所に車を停車し、エンジンを冷やしてください。 **➡オーバーヒート** P.161

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	方向指示器表示灯	• 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 • 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅	• 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 ➡**電球の交換** P.125, 126
	ハイビーム表示灯	• ヘッドライトを上向きにしたときに点灯	—
	低水温表示灯	• エンジンスイッチを II にすると数秒点灯したあと、消灯 • エンジン冷却水の温度が低いときに点灯	• 暖機を十分にした状態で、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーなどの異常が考えられます。Honda 販売店で点検を受けてください。
	セレクトポジション表示灯 ✤	• セレクトポジションの位置に連動して点灯	—

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

メーター

メーターには、スピードメーター、燃料計などの種類があります。

■ スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

■ 燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。
エンジンスイッチが II のとき表示されます。

■ タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

» 燃料計

アドバイス

燃料計が E に近づいたら、早めに給油してください。

燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合がありますので、ご注意ください。

» タコメーター

アドバイス

エンジン故障の原因となりますので限界回転数以上（レッドゾーン）に入らないよう運転してください。

特に、高速走行時にシフトダウンするときには、注意してください。

エンジンの限界回転数は、下表の通りです。

タイプ	限界回転数
マニュアル車	7,200rpm
3速オートマチック車	7,500rpm
4速オートマチック車	7,300rpm

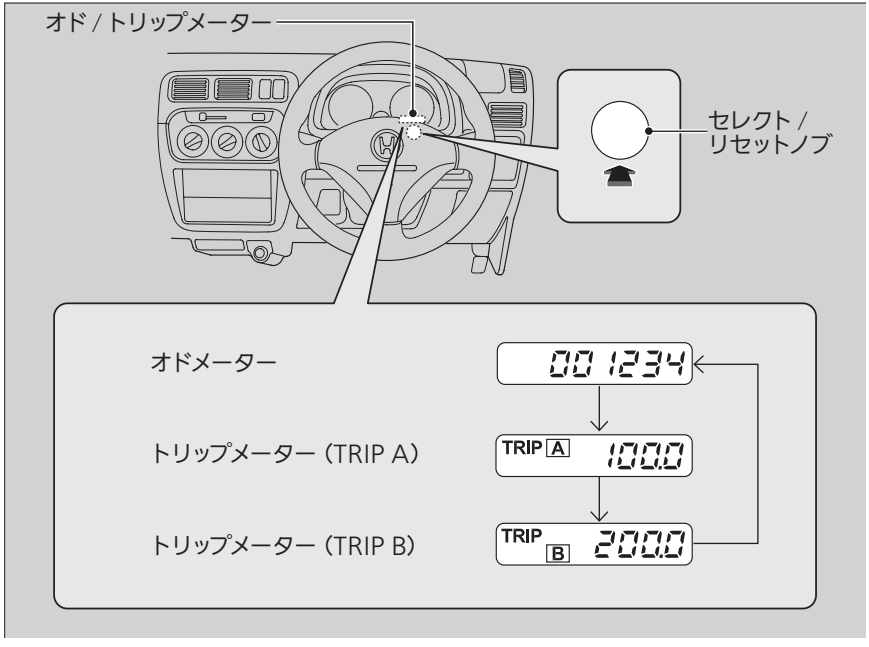
空ぶかしをしたときは、エンジンの限界回転数より低い回転数でも、トランスミッション保護のため燃料供給が停止されます。

オド / トリップメーター

エンジンスイッチを II にするとオドメーターまたはトリップメーターが表示されます。

■ 表示の切り換えかた

セレクト / リセットノブを押すごとに、表示が下記のように切り換わります。



次ページに続く

■ オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

■ トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。
トリップ A と、トリップ B があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

■ トリップメーターをリセットするには

トリップメーターが表示されている状態で、セレクト / リセットノブを押し続けてください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

トリップメーター

トリップAとトリップBは、セレクト/リセットノブで切り換えられます。

トリップメーターは走行距離が999.9kmを超えると、0.0kmに戻ります。

各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

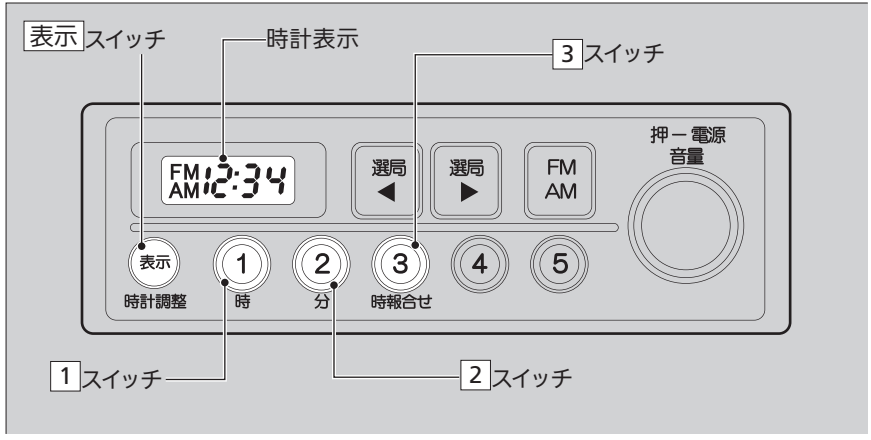


時刻の設定 46
ドアの施錠と解錠
キーの種類と機能 47
車外でのドアの施錠/解錠 49
車内での施錠/解錠 51
テールゲートの開閉 52
スライドドアの開閉 53
スライドドアの開閉操作 54
ウィンドーの開閉 55
ハンドルまわりのスイッチ操作
エンジンスイッチ 58
方向指示器（ウィンカースイッチ） 59
ライトスイッチ 59
ワイパー/ウォッシャー 60
ヘッドライトレベリングダイヤル 62
リヤデフロスタースイッチ 63
ミラー類の調節 64
シートの調節 66
ヘッドレスト 70
室内灯/室内装備品 71
エアコン
エアコンの吹き出し口 78
マニュアルエアコンの使いかた 79

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

時計はオーディオ装置に表示されます。

AM/FM ラジオ



■時刻の設定

1. オーディオの電源が ON のときに、表示を時計表示が点滅するまで押し続ける。
2. 時刻を合わせる。
　時：1 を 押 す
　分：2 を 押 す
3. 表示をもう一度押す。

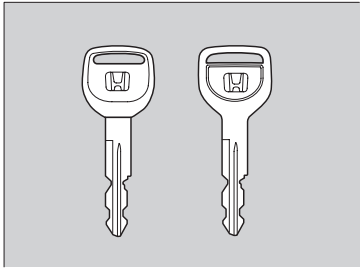
時刻設定が完了しました。画面に設定した時間が表示されます。

AM/FMラジオ

時報に合わせて正時に設定するには
左記の操作で、時間表示が点滅しているときに、時報と同時に3を押します。
下記のように表示されている時間に応じた正時に設定されます。
1：00〜1：29の場合 → 1：00に設定
1：30〜1：59の場合 → 2：00に設定

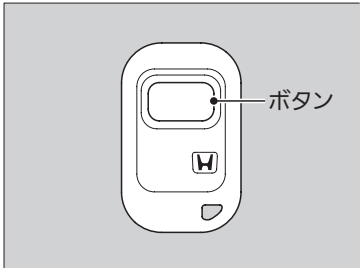
キーの種類と機能

この車には、以下のキーが付いています。



エンジンの始動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲートの施錠 / 解錠に使用できます。

■ キーレスエントリー発信器



ボタンで、すべてのドア、テールゲートの施錠 / 解錠の操作ができます。

» キーレスエントリー発信器

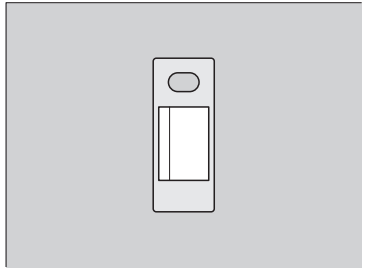
キーレスエントリー発信器には、精密な電子部品が組み込まれています。
故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 分解をしない

キーレスエントリー発信器の電子部品が故障すると、リモート発信が作動しなくなることがあります。
キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■ キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

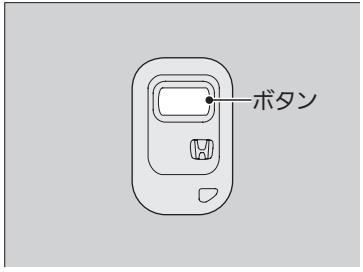
キーナンバータグ

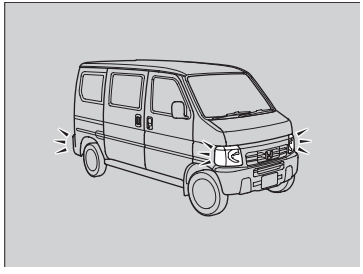
キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。

キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda販売店に依頼してください。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ キーレスエントリーでの施錠 / 解錠





■施錠

ボタンを押します。

► 非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

■解錠

ボタンを押します。

► 非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

» キーレスエントリーでの施錠/解錠

30秒以内にドア、テールゲートを開けてください。

キーレスエントリーで解錠操作をした場合、30秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

ボタンを押すと、室内灯が点灯します。

室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、ボタンを押すと室内灯が点灯します。

➲**室内灯** P.71

キーレスエントリーは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

次の場合、キーレスエントリーは作動しません。

- エンジンスイッチが 0 以外のとき
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき
- ドア、テールゲートが開いているとき（施錠時のみ）

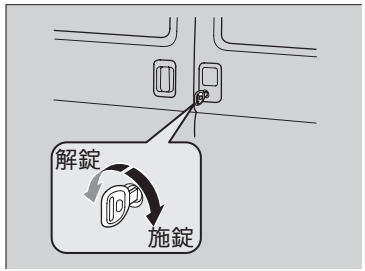
ドア、テールゲートが開いているときは、キーレスエントリーで施錠できません。

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

➲**電池交換のしかた** P.139

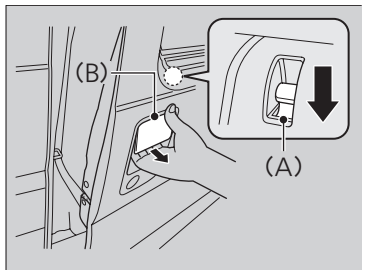
次ページに続く

■ キーを差し込んでの施錠 / 解錠



キーを確実に差し込んで回します。

■ キーを使わないでの施錠



ノブ（A）を押し込み、外側のドアハンドル（B）を引いたままドアを閉めます。

■キー閉じ込み防止装置

キーがエンジンスイッチに差し込まれていると施錠できません。

キーを差し込んでの施錠/解錠

運転席ドアでのキー操作

運転席ドアにキーを差し込んで施錠/解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠/解錠されます。

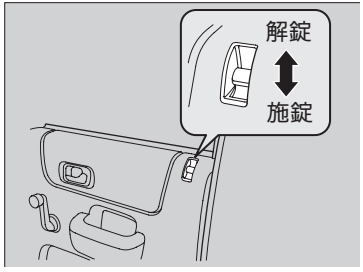
キーを使わないでの施錠

運転席ドアで施錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠されます。

キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

車内での施錠 / 解錠

■ ノブでの施錠 / 解錠



■施錠するには
押し込みます。

■解錠するには
引き出します。

» ノブでの施錠/解錠

運転席ドアのノブで施錠/解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠/解錠されます。

テールゲート開閉時の注意

テールゲート開閉をするときは、下記の点に注意してください。

■テールゲートを開けているとき

- テールゲートは上までしっかりと開ける。
  ► 途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- テールゲートを開けたまま走行しない。
  ► 車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

■テールゲートを閉めるとき

- キーまたはキーレスエントリーを、カーゴスペース内に置き忘れないように注意する。

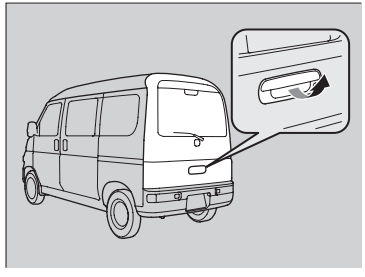
テールゲート開閉時の注意

⚠注意

テールゲートを閉めるときは、頭をぶつけたり手をはさまないよう注意する。

エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

テールゲートを開ける



解錠されているときに、ハンドルを引いて開けます。

テールゲートを開ける

運転席ドアを施錠したあとに、テールゲートを閉めると施錠されます。

スライドドアの開閉時の注意

スライドドアを開閉するときは、下記の点に注意してください。

■開けるとき

- スライドドアはストッパーで固定されるまでしっかりと開ける
  ► 途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。

■閉めるとき

- キーまたはキーレスエントリーを、車内に置き忘れないようにする

» スライドドア開閉時の注意

⚠注意

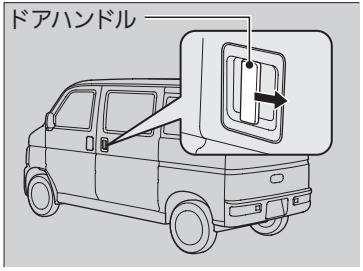
スライドドアを開閉するときはドアの内側と外側の安全を十分に確認し、手、足、顔などをはさまないよう注意する。
特にお子さまには気をつけてください。

傾斜地ではスライドドアを開けたままにしない。
ドアが不意に閉まるおそれがあります。

ドアハンドルをしっかり持って開閉する。
ドア本体を持って閉めたり、車体側に手をかけているとけがをするおそれがあります。

ドアのアームやレールなどには、手、足をかけない。

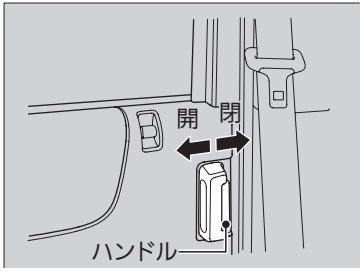
スライドドアの開閉操作



■車外から開閉するとき

開けるとき：ドアハンドルを引きながら後方へスライドさせる。

閉めるとき：ドアハンドルをにぎり前方へスライドさせる。



■車内から開閉するとき

開けるとき：ハンドルをにぎりながら後方へ引いてスライドさせる。

閉めるとき：ハンドルをにぎり前方へ押してスライドさせる。

スライドドアの開閉操作

スライドドアは全開にするとストッパーで固定されます。

運転席側のスライドドアはフューエルリッドが開いているとストッパーが作動して途中で止まります。フューエルリッドを閉めてから開けると全開できます。

マニュアル車、3速オートマチック車

助手席側のエンジンオイル注入口のリッドを開いているときは、スライドドアは開けないでください。

パワーウィンドー✤の開閉

エンジンスイッチがIIのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉は運転席、助手席それぞれのドアにあるスイッチで行います。運転席のスイッチでは、助手席のウィンドーの開閉操作も行うことができます。

助手席のウィンドーの開閉は、運転席のメインスイッチを ON にしてから行います。メインスイッチを OFF にしておくと、助手席のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、メインスイッチを OFF にしておいてください。

■ 自動開閉機能付きのウィンドーの開閉



■手動開閉

開けるとき：スイッチを軽く押す

閉めるとき：スイッチを軽く引き上げる

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■自動開閉

開けるとき：スイッチを強く押す

閉めるとき：スイッチを強く引き上げる

自動的に全開 / 全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ / 下げします。

» パワーウィンドーの開閉

⚠警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。

手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。

特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

指などをはさみ込まないように注意する。

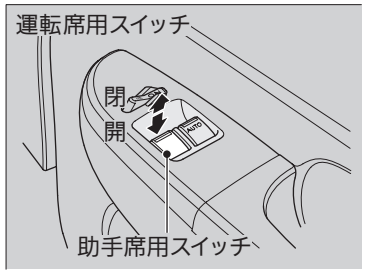
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

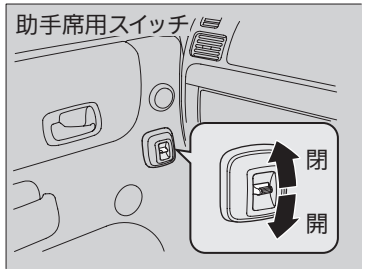
自動開閉機能付きのパワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

■ 自動開閉機能なしのウィンドーの開閉



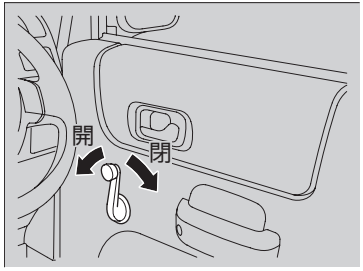


開けるとき：スイッチを押す
閉めるとき：スイッチを引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

パワーウィンドーの開閉

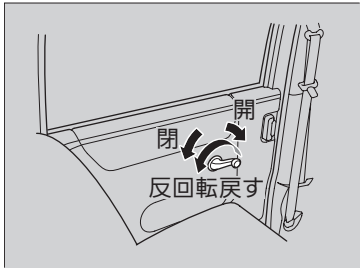
故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。
路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

マニュアルウインドー✤の開閉



■開閉するとき

ハンドルを回します。



■開けるとき

ハンドルを回して開けます。ウィンドーとハンドルは半開きの位置で一度止まります。全開させるときは、ハンドルを反回転戻してから回します。

■閉めるとき

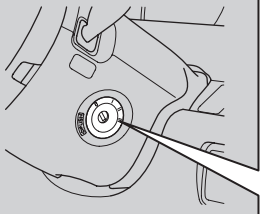
ハンドルを回して閉めます。

» マニュアルウインドーの開閉

全開時でも後席（左、右）のウインドーは完全に開きません。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

エンジンスイッチ



0 **ロック**
キーを抜き差しする位置

I **アクセサリー**
エンジンをかけずに、オーディオシステムなどのアクセサリーを使用するときの位置

II **ON**
運転するときの位置

III **始動**
エンジン始動位置
始動したら手を離すと、自動的にIIに戻ります。

エンジンスイッチ

⚠警告

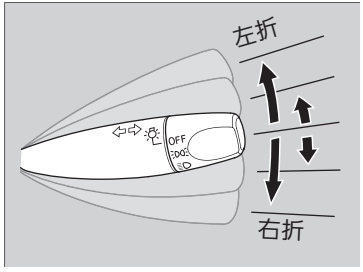
走行中はエンジンを止めないでください。
マニュアル車はエンジンスイッチを0にするとハンドルがロックされ、思わぬ事故につながります。

エンジンスイッチが0またはIのときにキーを差し込んだまま運転席ドアを開けると、キー抜き忘れ警告ブザーが鳴ります。
キーを抜いてください。ブザー音が止まります。

エンジンスイッチが0からIに回らないときは、ハンドルロックを解除します。
ハンドルを左右に回しながらキーを回してください。ハンドルロックが解除され、キーが回ります。

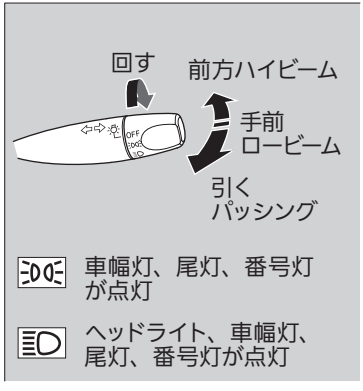
オートマチック車
セレクトレバーをPに入れないとキーを抜くことができません。

方向指示器（ウィンカースイッチ）



エンジンスイッチがIIのときに使用できます。

ライトスイッチ



スイッチを回すとエンジンスイッチの位置に関係なく、点灯 / 消灯します。

■ハイビーム
「カチッ」と音がするまでレバーを前方に押します。

■ロービーム
ハイビームのときは、レバーを手前に引きます。

■追越合図（パッシング）
レバーを手前に引き、離します。

ライトスイッチ

ライトを点灯したままキーを抜くと、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

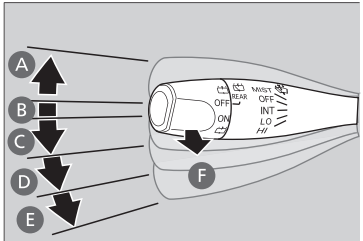
ハイビームにすると、メーター内の表示灯が点灯します。
➔表示灯 P.41

エンジンが停止しているときにライト類を点灯したままにしていると、バッテリーあがりの原因となります。

ワイパー / ウォッシャー

エンジンスイッチがIIのときに使用できます。

■ フロントワイパー / ウォッシャー



Ⓐ MIST :（レバーを操作している間作動）
Ⓑ OFF : 停止
Ⓒ INT : 間欠（雨量が少ないとき）
Ⓓ LO : 低速（普通の雨量のとき）
Ⓔ HI : 高速（雨量が多いとき）
Ⓕ ウォッシャー

■MIST

レバーを押し上げている間、作動します。
霧や小雨のときに使用します。

■ワイパースイッチ（OFF、INT、LO、HI）

■ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。

ワイパー/ウォッシャー

⚠注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

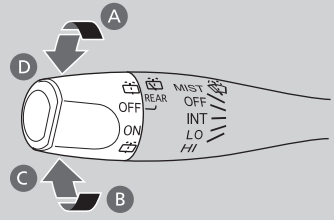
アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。
ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

■ リヤワイパー / ウォッシャー



Ⓐ ON : 数回作動後、間欠作動

Ⓑ OFF : 停止

Ⓒ ⛲ : ウォッシャーのみ作動

Ⓓ ⛲ : ワイパーとウォッシャーが作動

■ リヤワイパースイッチ

エンジンスイッチが II のときに使用できます。

■ ウォッシャースイッチ

スイッチを⛲まで回すと、ウォッシャー液が噴射します。

Ⓒまで回している間はウォッシャーのみが作動します。

Ⓓまで回している間はワイパーとウォッシャーが作動し、スイッチを離すとそのままワイパーが連続作動します。

» ワイパー/ウォッシャー

ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。

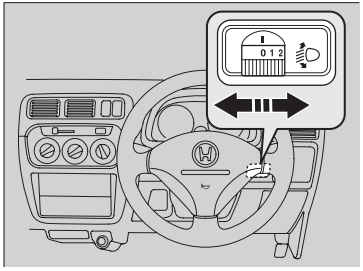
ワイパースイッチをOFF、エンジンスイッチを I または 0 にしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。

ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、ブレーカーが作動し一時的にワイパーが停止することがあります。

数分経過すると、ブレーカーが復帰し、通常通り使用できるようになります。

ヘッドライトレベリングダイヤル



エンジンスイッチがIIのとき、ヘッドライトの照らす方向（光軸）を下向きに調節することができます。

ダイヤルの数字が大きいほど光軸は下向きになります。

■ダイヤル位置の目安

乗員の人数や荷物の量に応じて、下表を目安にダイヤル位置を選択してください。

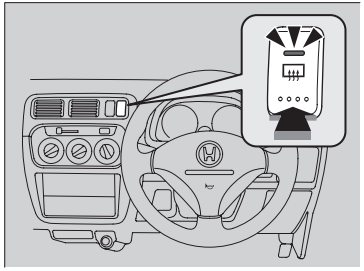
乗員やカーゴスペースの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
運転席のみ乗車でカーゴスペース満載時	3

ヘッドライトレベリングダイヤル

ダイヤル位置1と2は、乗員の人数や荷物の量に応じて、調節してください。

車検などで光軸調節をするときは、ダイヤルを0の位置に戻してから行ってください。

リヤデフロスタースイッチ



エンジンスイッチがIIのときにスイッチを押すと、リヤガラスを暖めて、曇りをとることができます。

» リヤデフロスタースイッチ

アドバイス

リヤガラスの内側を清掃するときは、電熱線を傷付けないよう注意してください。

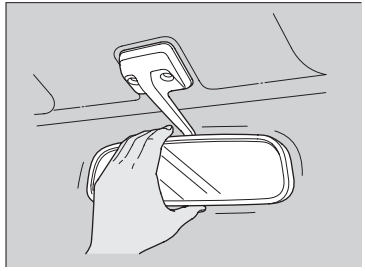
必ず、デフロスターの電熱線とアンテナ線に沿って左右方向に拭いてください。

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたらOFF にしてください。

また、エンジンの回転数が低いときに長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

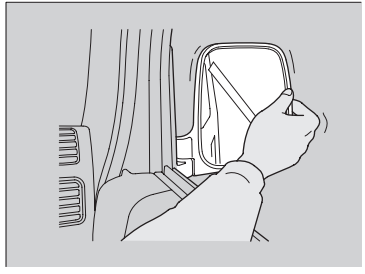
ミラー類の調節

ルームミラー

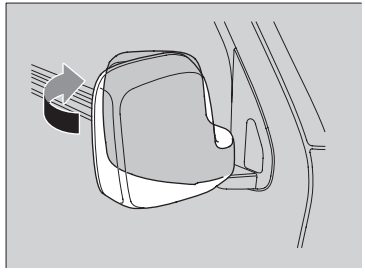


ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

ドアミラー



■角度調節
ミラー全体を動かして直接調節します。

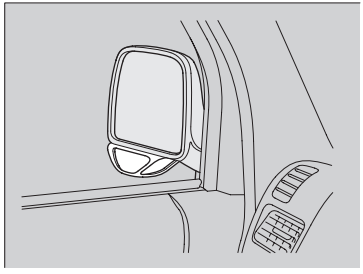


■格納
ミラーを車両後方に折りたたみます。走行するときは必ず元に戻してください。

ミラー類の調節

ミラー類の調節は、走行前に行ってください。

■ サイドアンダーミラー



助手席側ドアミラーの下部についています。
停車時や発進前などに車両左側面を確認するときに役立ちます。

» サイドアンダーミラー

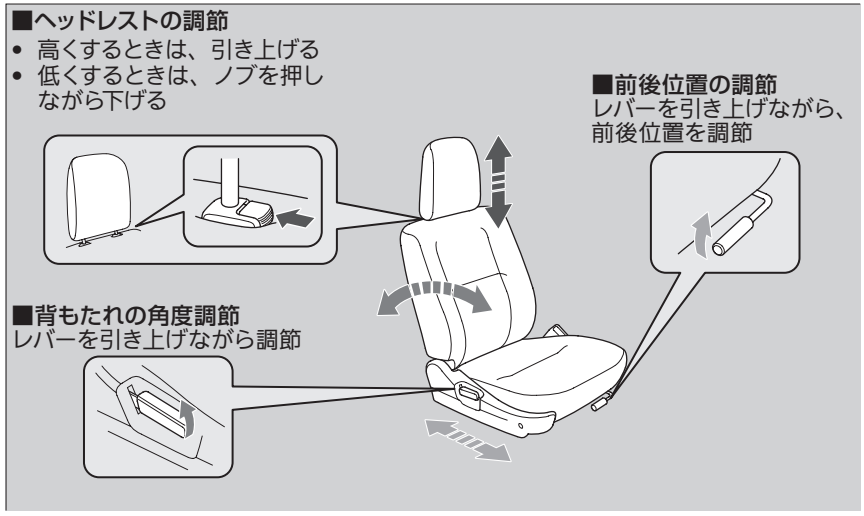
サイドアンダーミラーは、車両左側を見るために下向きになっています。
車両後方の確認は直接するか、ルームミラーやドアミラーで十分に行ってください。

助手席側ドアミラーの下部に固定されているため、サイドアンダーミラーのみの角度調節はできません。

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくブレーキペダル（マニュアル車はクラッチペダル）を十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

■ フロントシート / ヘッドレストの動かしかた



▶ フロントシート/ヘッドレストの動かしかた

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

フロントシートの下にものを置かない。
ものがはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

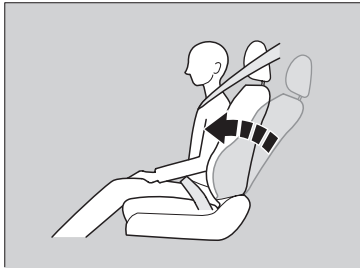
同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

■ フロントシートの調節



■シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。
助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードの SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。
シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。



■背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。
助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

» フロントシートの調節

⚠警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。
ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

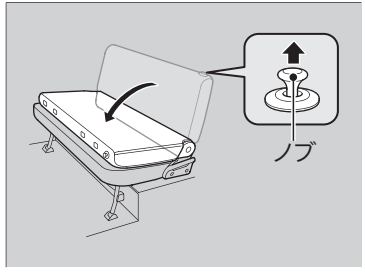
⚠注意

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。
正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

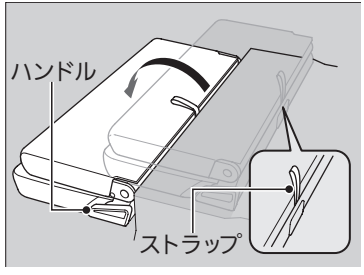
リヤシート✤

■ リヤシートの収納

リヤシートを収納して荷室を広くできます。



1. フロントシートを前方いっぱいに動かす。
➡フロントシートP.66
2. ノブを引き上げながら、背もたれを前に倒します。



3. ストラップを引きながらハンドル持って、シート全体を前方へずらす。

▨リヤシートの収納

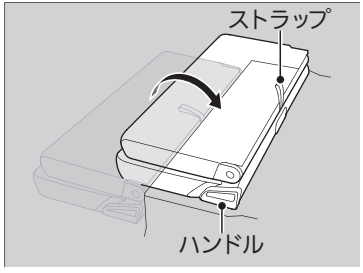
⚠注意

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

倒した背もたれの上やカーゴスペースには人を乗せて走行しない。また、シートを収納した状態で背もたれを起こして使用しない。
ブレーキをかけたときなどに、けがをするおそれがあります。

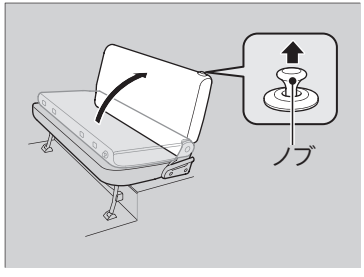
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■元に戻すとき



1. フロントシートを前方いっぱいに動かす。
➔**フロントシート**P.66

2. ストラップとハンドルを持って、シート全体を後方へ引き上げる。



3. ノブを引き上げながら、背もたれを起こします。

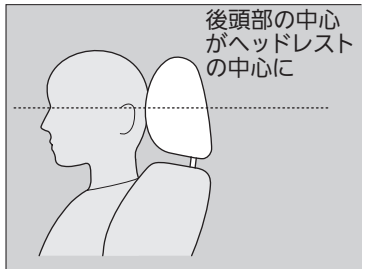
リヤシートの収納

カーゴマットは、必ず確実に敷いてください。
カーゴマットが確実に敷いていない状態では、リヤシートが不安定になりロックやヒンジなどを破損するおそれがあります。

シートを元に戻したときは、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。

ヘッドレスト

■ フロントシートヘッドレストの調節



後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るようにヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき：ノブを押しながら下げます。

■ ヘッドレストの取り外しと取り付け

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し：
ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け：
ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

ヘッドレスト

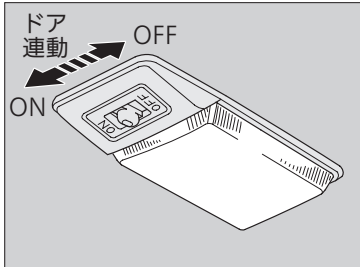
⚠警告

ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。
ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

室内灯

■ 室内灯、カーゴスペース照明灯スイッチ



■ON
ドア、テールゲートの開閉に関係なく点灯。

■ドア連動
以下のときに点灯。
- 運転席ドアを解錠したとき
- エンジンスイッチからキーを抜いたとき

SDX
- ドア、テールゲートを開けたとき

PRO-A
- 運転席ドア、テールゲートを開けたとき

■OFF
ドア、テールゲートの開閉に関係なく消灯。

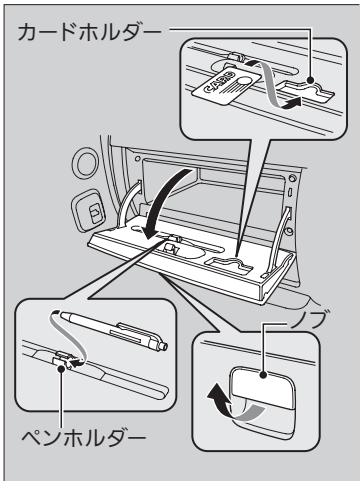
» 室内灯、カーゴスペース照明灯スイッチ

以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。
- 運転席のドアを施錠したとき
- エンジンスイッチにキーが差し込まれた状態で運転席ドアを閉めたとき
- エンジンスイッチをIIにしたとき

キーが差し込まれていない状態のときにいずれかのドアを開けたままにすると、約3分後に消灯します。

室内装備品

■ グローブボックス



ノブを引くと開きます。
内側にペンホルダー、カードホルダーが付いています。

グローブボックス

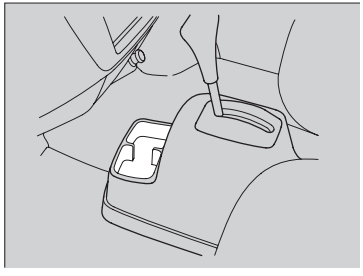
⚠警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

■ ドリンクホルダー



■運転席用ドリンクホルダー



■フロントシート用ドリンクホルダー

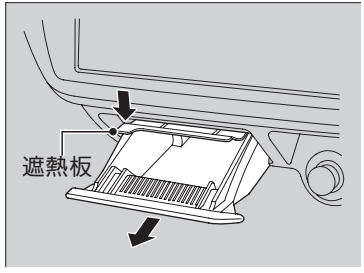
» ドリンクホルダー

⚠注意

飲みものなどを電装品にこぼさないように注意する。
スイッチなどの電装品に飲みものがかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

次ページに続く

■ 灰皿



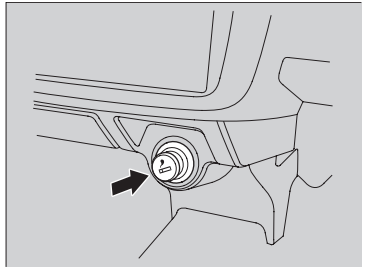
引き出して使います。
清掃するときは遮熱板を下に抑えながら外します。

灰皿

⚠注意

タバコ、マッチなどは確実に火を消して、灰皿は必ず閉める。
吸がらをためすぎたり、紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。
タバコの火が燃え広がるおそれがあります。

■ シガレットライター



エンジンスイッチがⅠまたはⅡのときに使用できます。
ライターを押し込んで手を離し、元の位置に戻るまで待ちます。
ヒーター部が赤熱すると自動的に戻ります。

シガレットライター

⚠注意

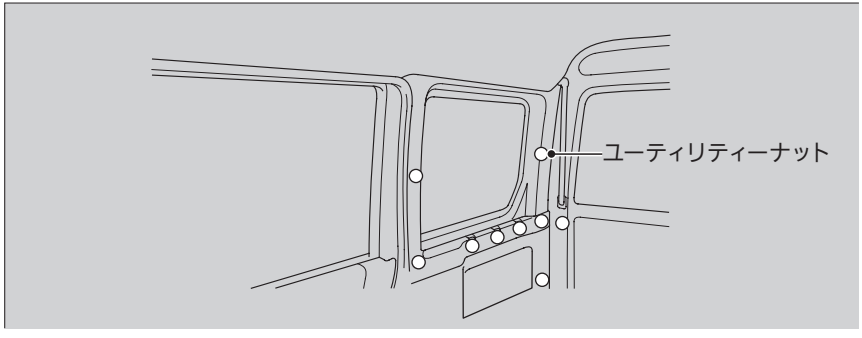
シガレットライターの金属部分に触れない。
やけどをするおそれがあります。

■ ユーティリティーナット ✤

ユーティリティーナットは、市販のフックなどを取り付けて使用します。

■ユーティリティーナットの位置

カーゴスペースの両側とテールゲートにユーティリティーナットを装備しています。
ユーティリティーナットを使用するときは、使用する箇所のクリップを取り外して使用します。



» ユーティリティーナット

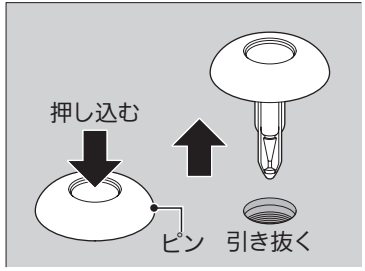
⚠注意

後席に乗車するときは後席周辺のユーティリティーナットに市販のフックなどを取り付けない。
シートベルトが正しく着用できなかったり、衝突時や旋回時などにものがぶつかるなど、けがをするおそれがあります。

テールゲートのユーティリティーナット（2カ所）に規定以上の重さのものをかけて使用しない。
風などによりテールゲートが急に閉まり、けがをするおそれがあります。
規定重量：1カ所 1.5kg 以下

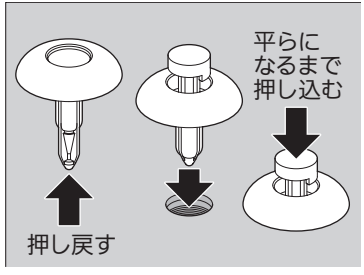
次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

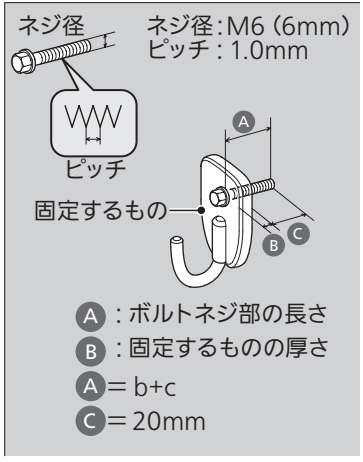


■ クリップ脱着のしかた

クリップ中央部のピンを「カチッ」と音がするまで軽く（2mm 程度）押し込んでクリップを引き抜きます。



元に戻すときは、図のようにしてクリップ中央部のピンを押し戻して、ユーティリティーナットに差し込み、ピンを平らになるまで押し込みます。



■市販品の取り付けかた

ユーティリティーナットや車体の損傷を防ぐため、取り付けボルトは左記ものをお使いください。

締め付けトルク 9.8 N·m (1.0 kgf·m)

» 市販品の取り付けかた

アドバイス

規定以外のボルトを使用するとユーティリティーナットやボディが破損します。

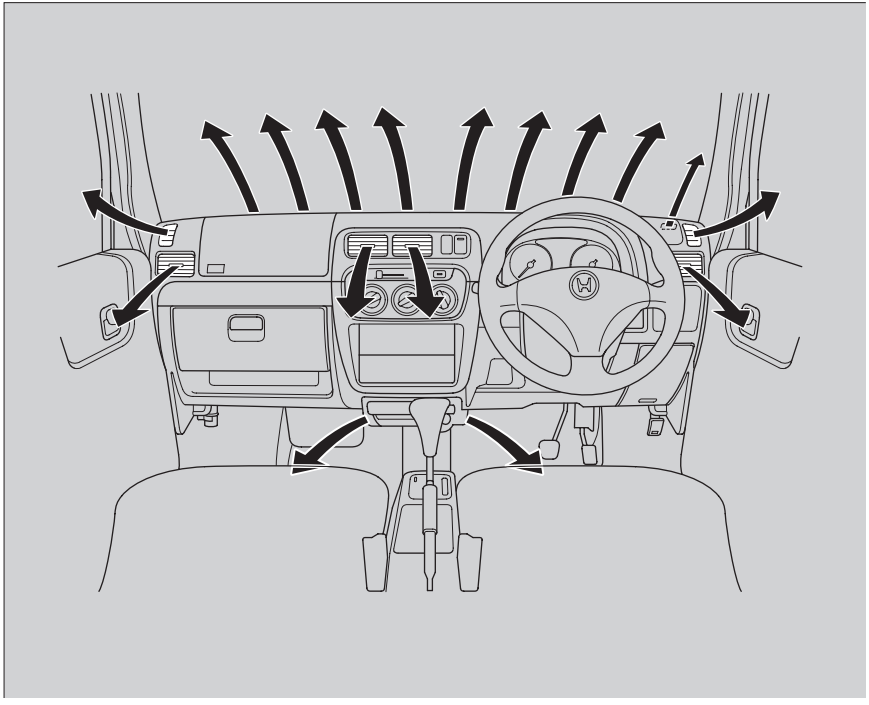
市販品を取り付けるときは、使用する部品のサイズ、仕様と安全性を確認のうえ使用します。

取り付け内容によっては、車検証等の記載事項の変更または、構造変更検査が必要な場合もあります。

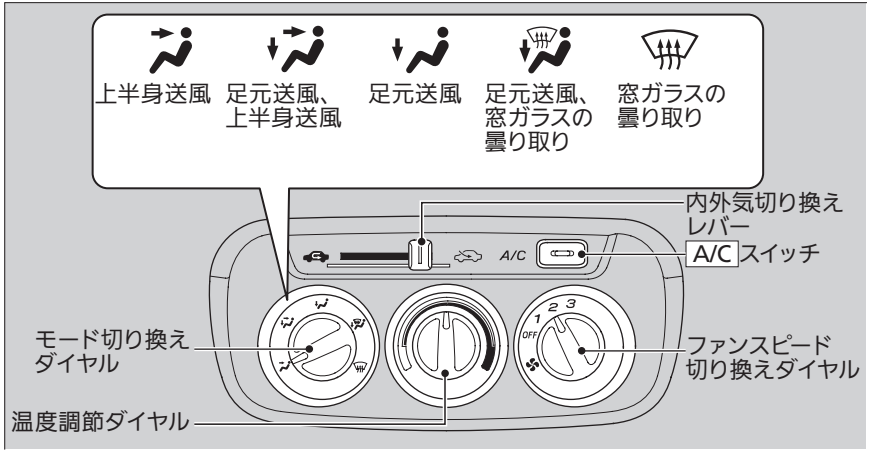
ユーティリティーナットにものを取り付けるときは、エンジンルームリッドやメンテナンスリッドが開閉できることを確認してください。

お取り付けに関してご不明な点はHonda販売店にご相談ください。

エアコンの吹き出し口



マニュアルエアコンの使いかた



エンジンを始動してから使用します。

1. ファンスピード切り換えダイヤルで風量を調節する。

2. モード切り換えダイヤルで吹き出し口を選ぶ。

3. 温度調節ダイヤルで吹き出し風の温度を調節する。

4. 冷房や除湿暖房をするときは、A/Cを押す。

5. 停止するときは、ファンスピード切り換えダイヤルをOFFにする。

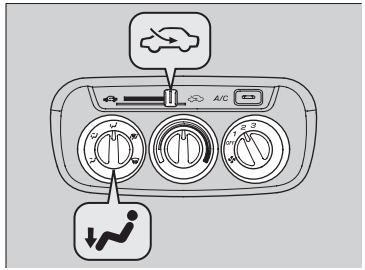
■内気 / 外気の切り換え

状況に合わせて、内外気切り換えレバーを操作して内気 / 外気を切り換えます。

- 内気 : トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気 : 換気を行う場合

次ページに続く

■暖房のしかた



暖房はエンジンの熱を利用して、車内の空気を暖めます。

1. ファンスピード切り換えダイヤルで、希望の風量に調節する。
2. モード切り換えダイヤルを にする。
3. 温度調節ダイヤルで希望の温度に調節する。
4. に切り換える。

■急速に車内を暖めたいとき

1. ファンスピード切り換えダイヤルを最強（3）にする。
2. モード切り換えダイヤルを にする。
3. 温度調節ダイヤルを最大温風にする。
4. に切り換える。

■曇り止め暖房をしたいとき

エアコンを ON にすると除湿暖房ができます。外気が除湿され、乾燥した空気で車内を暖めるので、曇り止めに役立ちます。

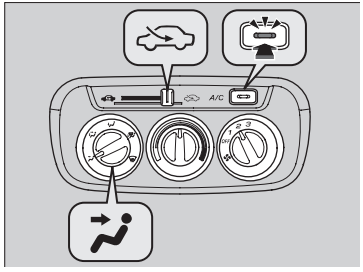
1. ファンスピード切り換えダイヤルで、希望の風量に調節する。
2. モード切り換えダイヤルを にする。
3. 温度調節ダイヤルで希望の温度に調節する。
4. A/C を押す。（表示灯点灯）
5. に切り換える。

暖房のしかた

急速暖房で車内が暖まったら、ただちに外気導入に切り換えてください。

内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

■ 冷房のしかた



1. ファンスピード切り換えダイヤルで、希望の風量に調節する。
2. モード切り換えダイヤルを にする。
3. 温度調節ダイヤルで希望の温度に調節する。
4. A/C を押す。（表示灯点灯）
5. に切り換える。

■急速に車内を冷やしたいとき

1. ファンスピード切り換えダイヤルを最強（3）にする。
2. モード切り換えダイヤルを にする。
3. 温度調節ダイヤルを最大冷風にする。
4. A/C を押す。（表示灯点灯）
5. に切り換える。

冷房のしかた

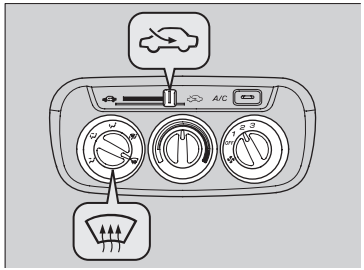
急な上り坂などでは、走行性能を優先するため、エアコンが作動しないことがあります。

炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら冷房を開始してください。

急速冷房で車内が冷えたら、ただちに外気導入に切り換えてください。
内気循環で使い続けると車内の空気が汚れます。

次ページに続く

■ 前面・側面ガラスの曇り止め（デフロスター）の使いかた



1. ファンスピード切り換えダイヤルを回し、希望の風量に調節する。
2. モード切り換えダイヤルを[⛆]にする。
3. 温度調節ダイヤルで希望の温度に調節する。
4. [⛐]に切り換える。

■急速に霜を取りたいとき

1. ファンスピード切り換えダイヤルを最強（[3]）にする。
2. モード切り換えダイヤルを[⛆]にする。
3. 温度調節ダイヤルを最大温風にする。
4. [🚗]に切り換える。

■湿度の高いとき

1. ファンスピード切り換えダイヤルで、希望の風量に調節する。
2. モード切り換えダイヤルを[⛆]にする。
3. 温度調節ダイヤルで希望の温度に調節する。
4. [A/C]を押す。（表示灯点灯）
5. [⛐]に切り換える。

▨前面・側面ガラスの曇り止め（デフロスター）の使いかた

霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。
内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

エアコンをONにしているときは、設定温度を最大冷房付近にしないでください。
冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。



オーディオ

この章では、ラジオの操作方法について記載しています。

オーディオ装置
取り扱いについて……84
アンテナ……84
AM/FMラジオ
各部の名称……85
基本操作……86
ラジオの使いかた……87

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

取り扱いについて

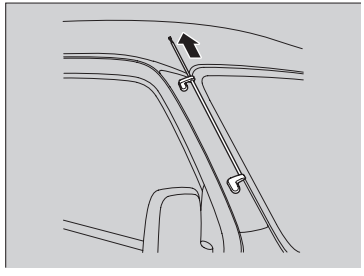
- 運転中の音量は車外の音が聞こえる程度の音量でお使いください。車外の音が聞こえない状態では安全の妨げとなります。
- 運転中のオーディオ操作は、安全に支障がないようにしてください。
- 車内や車の近くで携帯電話や無線機を使うと、オーディオに雑音が入ることがあります。

■ ラジオの受信状態について

ラジオの受信は、車の走行にともない受信状態が刻々と変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。

アンテナ

■ マニュアルアンテナ



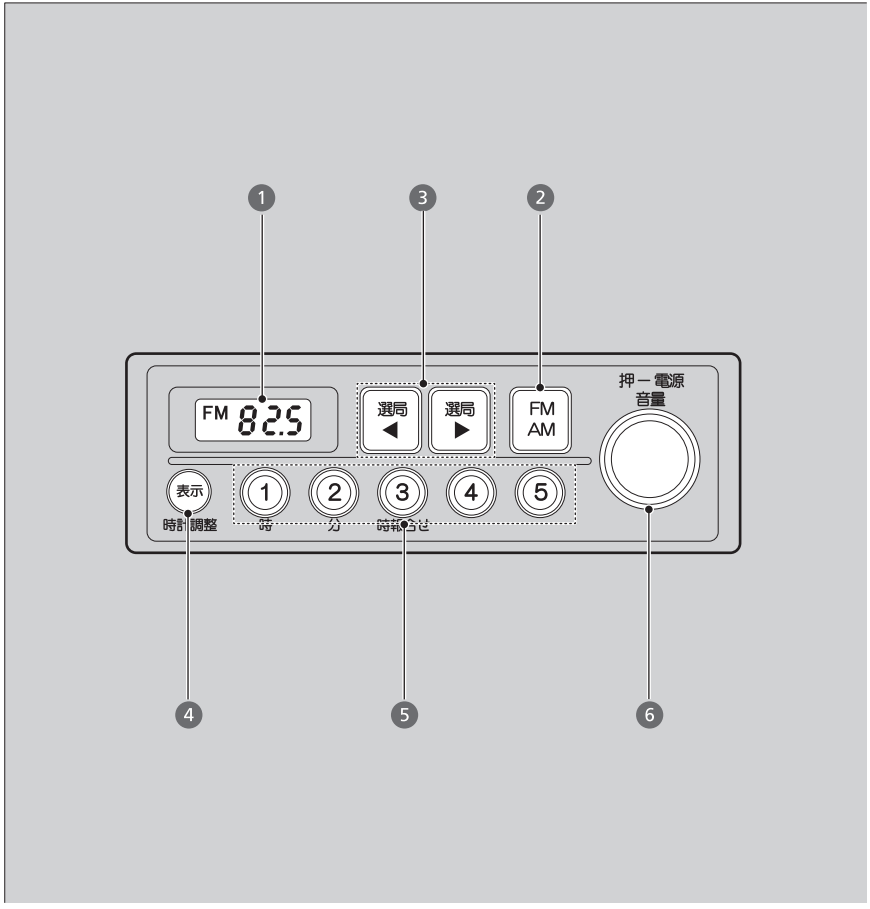
ラジオを受信するときは、アンテナをいっぱいまで伸ばしてください。

▨アンテナ

アンテナの破損を防ぐために、次のような場合は、アンテナを格納してください。

- 駐車場の天井などにアンテナが当たるとき
- ボディーカバーをかけるとき
- 自動洗車機を使用するとき

各部の名称



❶ 画面
選択中のラジオ局の情報と、時計が表示される画面です。

❷ FM/AM スイッチ
AM、FM 放送を切り換えるときに押します。

❸ ◀ / ▶ スイッチ
ラジオ局を探すときに押します。

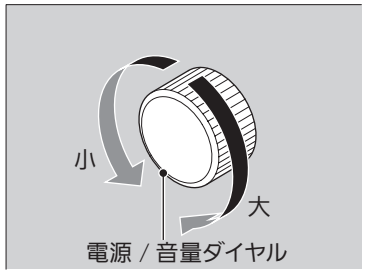
❹ 表示 スイッチ
画面の表示を切り換えるときに押します。

❺ ワンタッチ選局スイッチ 1 ～ 5
ラジオ局をあらかじめ設定しておき、ワンタッチで選局するためのスイッチです。

❻ 電源 / 音量ダイヤル
電源：オーディオ装置の電源を入れるときに押します。
音量：音量を調節するときに回します。

基本操作

オーディオ装置はエンジンスイッチが I または II のときに使用できます。



■オーディオ装置の ON/OFF

電源 / 音量ダイヤルを押すと電源が ON になり、もう一度押すと OFF になります。

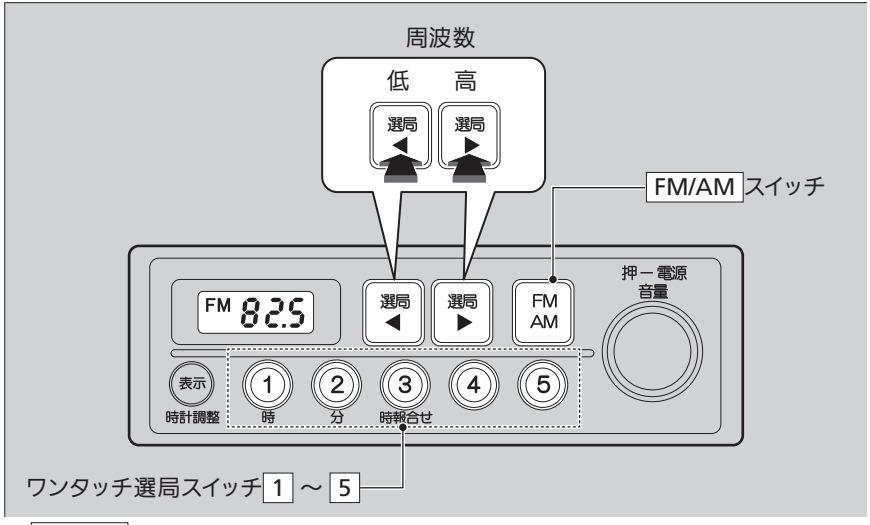
■音量の調節

電源 / 音量ダイヤルを回して、音量を調節します。

基本操作

FM/AM を押しても電源がONになります。

ラジオの使いかた



1. FM/AM を押してバンドを選ぶ。
▶ スイッチを押して、FM/AM を選びます。

2. 選局する。

■ワンタッチ選局

あらかじめ登録してある放送局を受信するときは、1～5を押します。

放送局の登録 P.88

■手動選局

◀ / ▶を押すと、受信周波数が少しずつ変化します。

■自動選局

◀ / ▶を「ピッ」と鳴るまで押すと自動的に電波を探し、放送を受信すると止まります。

次ページに続く

ラジオの使いかた

受信電波が弱いと、自動選局では選局できないことがあります。

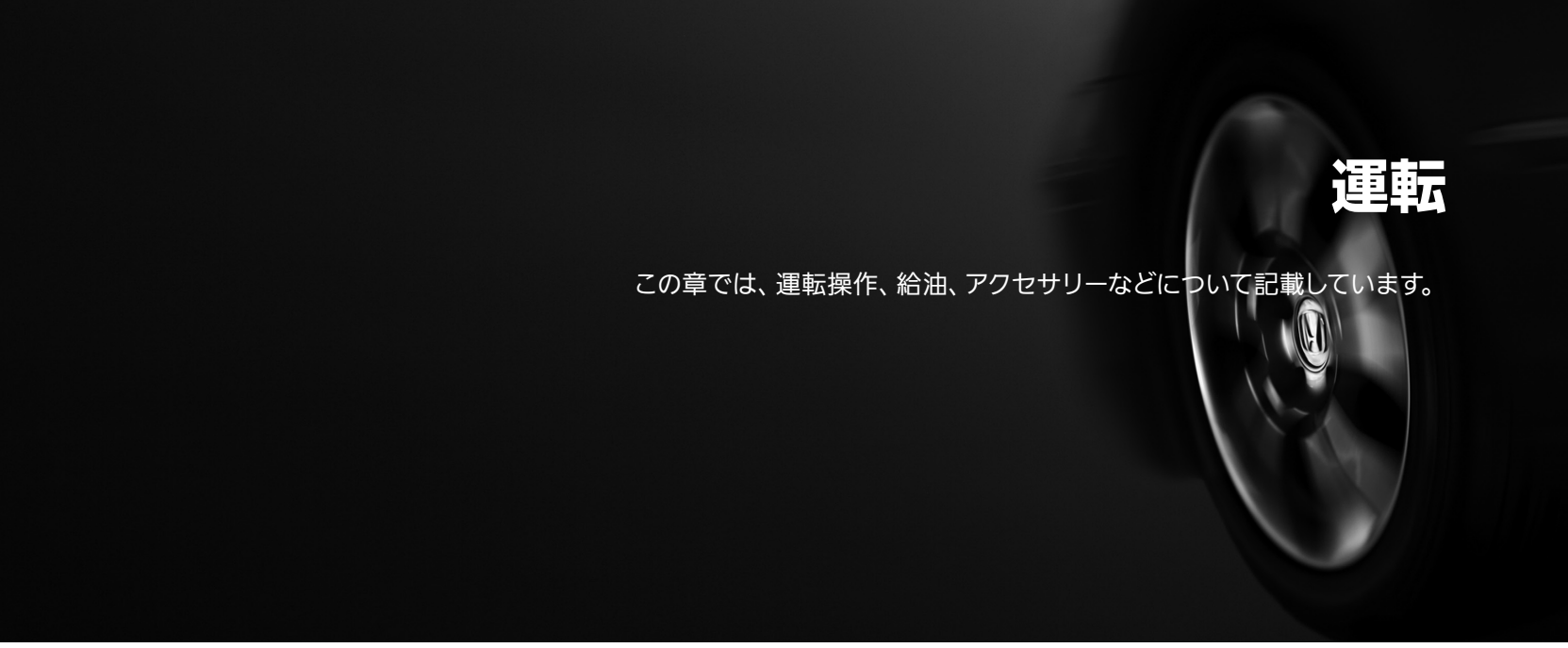
このようなときは、◀ / ▶の手動選局で選局してください。

■ 放送局の登録

AM5局、FM5局を登録できます。

■手動で放送局を登録する（プリセット）

1. FM/AM を押してバンドを選ぶ。
2. ◀ / ▶ で選局する。
3. 登録したいワンタッチ選局スイッチを選び、数秒間押す。
▶ 放送局が登録されると、「ピッ」と音がします。
4. 続けて登録する場合は、**2**、**3** の操作を繰り返す。



運転

この章では、運転操作、給油、アクセサリーなどについて記載しています。

運転の前に……90
運転操作
エンジンの始動……92
走行時の注意点……95
オートマチックについて……97
シフト操作……98
4WD（四輪駆動機構）……103
ブレーキ操作
ブレーキシステム……104
ABS（アンチロックブレーキシステム）……106
駐停車操作……107
給油
指定燃料について……109
給油のしかた……109
アクセサリーと改造……112

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

■ 車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
  ► 霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
  ► 屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
  氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
  ► 足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
  ► 走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
  ► 空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
  タイヤの点検と整備 P.133
- 車の周囲に子供はいないか？
  車の周りに障害物はないか？
  ► 運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

■ 車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっていないか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
  ► ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。

車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。
無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。
凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。
車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

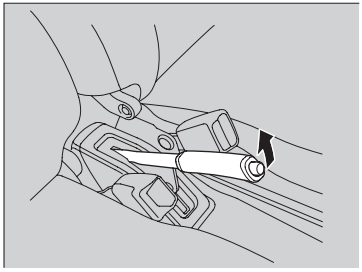
車内での確認項目

運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。
運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車に合ったフロアマットをお使いください。

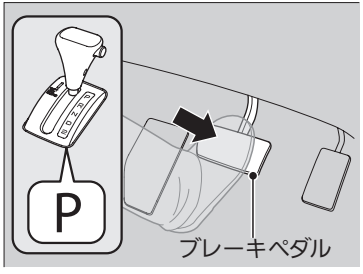
- フロントシートの足元にものを置いていないか？
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
  ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
  ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
  ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シート位置などが適切に調節されているか？
  ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
  ➔**シートの調節** P.66
- ルームミラー、ドアミラーは適切に調節したか？
  ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
  ➔**ミラー類の調節** P.64
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
  ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
  ➔**シートベルトの着用** P.22
- ドア、テールゲートが確実に閉まっているか？
  ▶ 走行前にすべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
  ➔**車内での施錠 / 解錠** P.51
- エンジンを始動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
  ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
  ➔**警告灯** P.38

エンジンの始動



共通操作

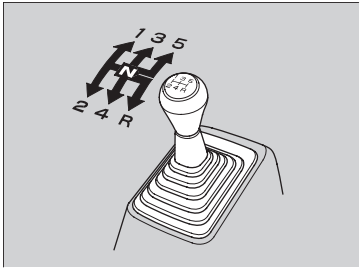
1. パーキングブレーキをかける。



オートマチック車

2. セレクトレバーがPであることを確認し、右足でブレーキペダルを踏む。

► Nでも始動できますが、安全のため駆動輪が固定されるPで行ってください。



マニュアル車

2. チェンジレバーがN（ニュートラル）であることを確認し、右足でブレーキペダル、左足でクラッチペダルを踏む。

► 思わぬ事故を防ぐため、クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとエンジンが始動しません。

エンジンの始動

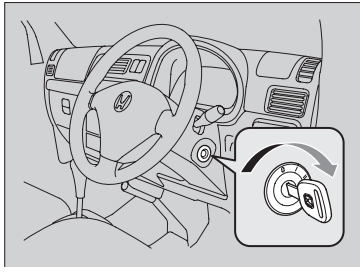
⚠警告

バッテリー液が不足しているときは、エンジンを始動しない。
バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠注意

エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのエンジンの始動は、すべての電気アクセサリーをOFFにしてから行います。
寒いときのエンジンの始動は、バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべてOFFにしてから行ってください。



共通操作

3. アクセルペダルを踏まずに、エンジンスイッチをIIIに回す。
▶ エンジンが始動したら、エンジンスイッチを離します。

» エンジンの始動

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。
Honda販売店で点検を受けてください。

エンジンスイッチを15秒以上IIIにしないでください。
エンジンが始動したらすぐに、手を離してください。自動的にIIに戻ります。

エンジンが始動しない場合は、10秒以上待ってから操作してください。
エンジンが始動しない、始動してもすぐに止まる場合は、10秒以上待ってからアクセルペダルを軽く踏みながら**手順3**を繰り返してください。エンジンが始動したらアクセルペダルを離します。

次ページに続く

オートマチック車

■ 発進時の操作

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを[D]（4 速オートマチック車は[D4]）にする。
▶ 後退する場合は[R]にします。

2. パーキングブレーキを解除する。
▶ ブレーキ警告灯が消灯したことを確認してください。
➡**パーキングブレーキ** P.104

3. ブレーキペダルを徐々に離し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで発進する。

▨発進時の操作

⚠注意

アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しない。
急発進して思わぬ事故の原因となります。

坂道での発進時は、必ずパーキングブレーキを併用してください。
車が後退しないよう、パーキングブレーキをかけたまま、先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキを解除してください。

走行時の注意点

■ 霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

■ 風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。
トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

走行時の注意点

走行中はエンジンを停止しないでください。
下記のような状態になり危険です。
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

車を移動するときは、必ずエンジンを始動してください。
下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

オートマチック車

走行中はセレクトレバーを[N]にしないでください。
エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

高速走行中にセレクトレバーを[2]にしないでください。
急激なエンジンブレーキがかかり、エンジンが過回転になり故障することがあります。

次ページに続く

■ 雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。
わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

■ その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。
ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

その他の注意点

⚠注意

シフトダウンする際の車速には、十分注意する。
滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどしてEPS（電動パワーステアリング）システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。
システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

オートマチックについて

■ クリープ現象

エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがP N以外に入っていると動力がつながった状態になり、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

クリープ現象

エンジン回転が上がるとクリープ現象が強くなります。
エンジン回転が上がったときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。
ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

■ キックダウン

セレクトレバーがD D3 D4で走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に変速比が変わりエンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。

キックダウン

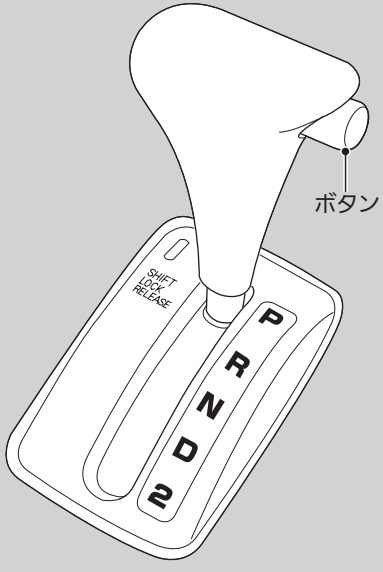
上り坂などでアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより急にエンジン回転が上がり、速度が出すぎてしまうことがあります。
アクセルペダルは慎重に操作してください。
滑りやすい路面やカーブでは、特に注意が必要です。

3 速オートマチック車

シフト操作

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。

■ セレクトポジションの名称とはたらき



P パーキング
駐車またはエンジンの始動

R リバース
車を後退

N ニュートラル
アイドリング状態

D ドライブ
通常走行
（1 から 3 速まで自動変速）

2 セカンド
2 速固定

シフト操作

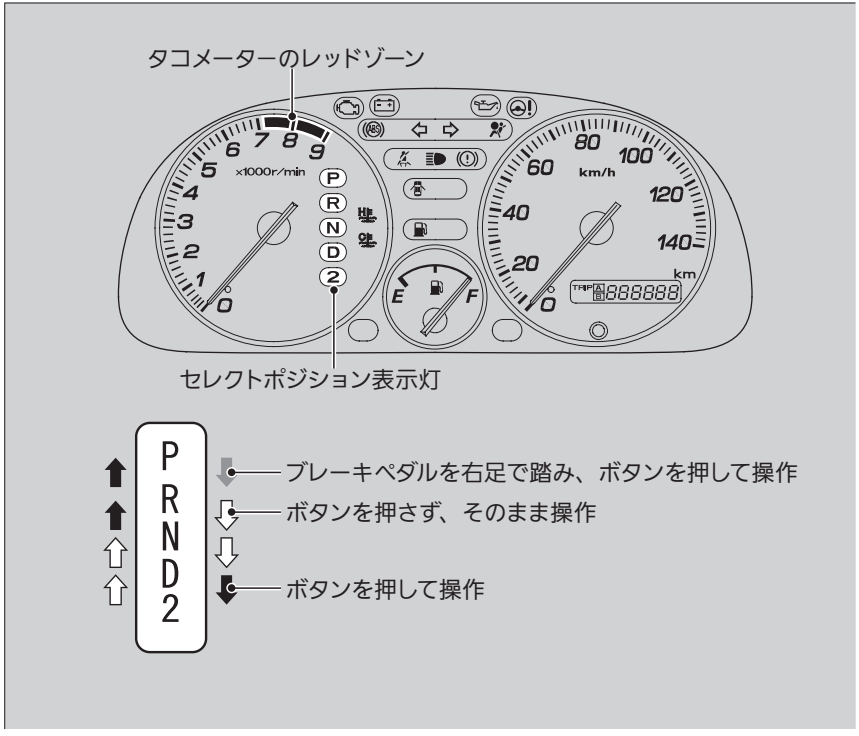
セレクトレバーがP以外のときは、エンジンスイッチが0まで回らないため、キーを抜くことはできません。

Rのポジションのときは、ブザー音が鳴り運転者にセレクトレバーがRに入っていることを知らせます。

Nのポジションのときでも、エンジンが冷えているときはトランスミッションフルードの粘性により、車がわずかに動き出すことがあります。
ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

■ セレクトレバーの操作

セレクトポジションは、メーター部にあるセレクトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示灯の点灯で表示します。



» セレクトレバーの操作

アドバイス

前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。

車が完全に止まっていない状態でレバーを操作すると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

エンジンの回転をあやまってタコメーターのレッドゾーン（限界回転数）以上で運転した場合、エンジン保護装置により燃料供給が停止されます。

そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。

セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、セレクトレバーの操作ができないことがあります。

先にブレーキペダルを踏んでください。

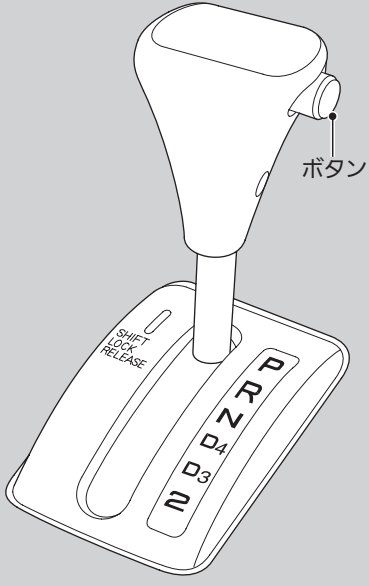
車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにセレクトポジション表示灯でもセレクトレバーの位置を確認してください。

4 速オートマチック車

シフト操作

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。

■ セレクトポジションの名称とはたらき



P パーキング
駐車またはエンジンの始動

R リバース
車を後退

N ニュートラル
アイドリング状態

D4 ドライブ 4
通常走行

D3 ドライブ 3
（1 から 3 速まで自動変速）

2 セカンド
2 速固定

シフト操作

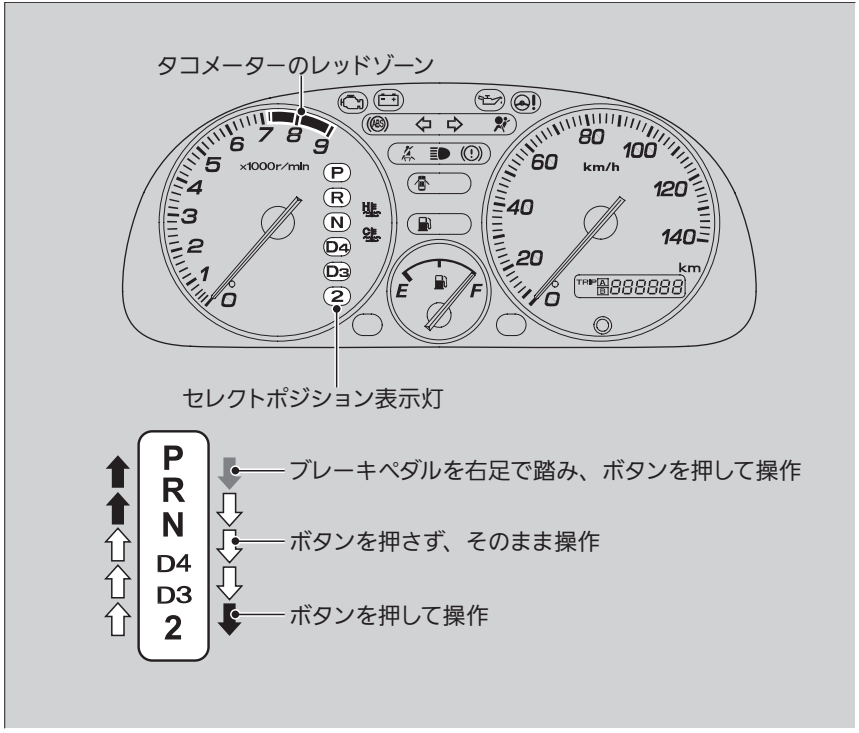
セレクトレバーがP以外のときは、エンジンスイッチが0まで回らないため、キーを抜くことはできません。

Rのポジションのときは、ブザーが鳴り運転者にセレクトレバーがRに入っていることを知らせます。

Nのポジションのときでも、エンジンが冷えているときはトランスミッションフルードの粘性により、車がわずかに動き出すことがあります。
ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

■ セレクトレバーの操作

セレクトポジションは、メーター部にあるセレクトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示灯の点灯で表示します。



» セレクトレバーの操作

アドバイス

前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。
車が完全に止まっていない状態でレバーを操作すると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

エンジンの回転をあやまってタコメーターのレッドゾーン（限界回転数）以上で運転した場合、エンジン保護装置により燃料供給が停止されます。
そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。

セレクトレバーのボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、セレクトレバーの操作ができないことがあります。
先にブレーキペダルを踏んでください。

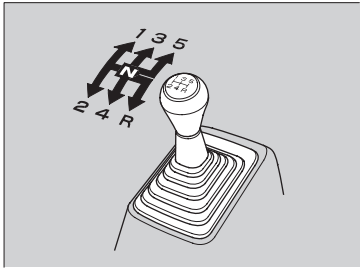
車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにセレクトポジション表示灯でもセレクトレバーの位置を確認してください。

マニュアル車

シフト操作

■ チェンジレバーの操作

変速するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで、チェンジレバーを確実に操作します。



チェンジレバーの操作

アドバイス

車が完全に止まらないうちはRに入れないでください。

トランスミッション破損の原因となります。

誤操作を防ぐため、5からRへ直接チェンジレバーを切り換えることはできません。

停車してもRに入らないときは、一度N（ニュートラル）へ戻してからRにいれてください。

エンジンの回転をあやまってタコメーターのレッドゾーン（限界回転数）以上で運転した場合、エンジン保護装置により燃料供給が停止されます。

そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。

4WD（四輪駆動機構）✤

4WD（四輪駆動機構）は、積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において、2WD 車（二輪駆動車）に比べて走破性にすぐれていますが、万能ではありませんので以下の点に注意してください。

- アクセル、ハンドル、ブレーキ操作は一般の車と同じく慎重に行う
- 砂地、ぬかるみなど、前輪が空転しやすい場所での連続走行はしない
- 渡河などの水中走行はしない
- ブレーキ性能は 2WD 車と比べてほとんど差がないため、滑りやすい路面では十分に車間距離をとって走行する

4WD（四輪駆動機構）

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、4WDが正常に機能しないことがあります。

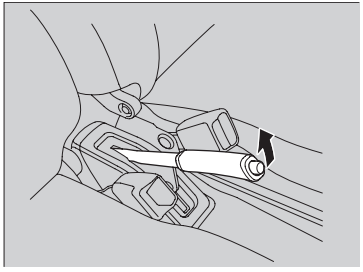
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ブレーキシステム

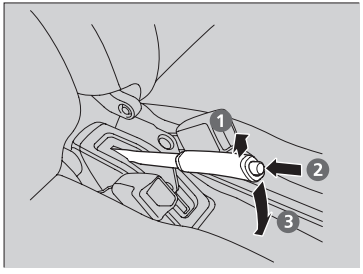
■ パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキレバーにより操作します。



■パーキングブレーキをかける

ボタンを押さずにレバーをいっぱいに引きます。



■パーキングブレーキを解除する

1. レバーを軽く引き上げながら、ボタンを押す。
2. ボタンを押したまま、レバーを下まで完全に下ろす。

パーキングブレーキ

アドバイス

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、リヤブレーキと車軸が損傷するおそれがあります。

パーキングブレーキは完全に解除した状態で、走行してください。

駐車するときは、車が動き出さないように必ずパーキングブレーキをかけてください。

■ フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。

ABS 装備車

ブレーキのロックを防止する ABS（アンチロックブレーキシステム）で、安全性の向上を図っています。

➡**ABS（アンチロックブレーキシステム）** P.106

» フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。

Honda販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。

そのため、長い下り坂などではエンジンブレーキを使用します。アクセルペダルから足を離し、ギヤを低速にシフトすると、エンジンの回転抵抗で速度が落ちます。

ABS（アンチロックブレーキシステム）✤

■ ABS とは

ABS（アンチロックブレーキシステム）とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。なお、低速（車速約 10km/h 以下）では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯

エンジンスイッチを II にすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

ABS（アンチロックブレーキシステム）

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABSが正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABSが作動していない可能性があります。ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

ABSは、制動距離を短くするためのものではありません。

ABSを装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。ABSが作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、過信せず安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABSの装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためフロントコンパートメントからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

駐車する

1. ブレーキペダルをしっかり踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかける。

オートマチック車

3. セレクトレバーを[P]に入れる。

マニュアル車

3. チェンジレバーを[R]または[1]に入れる。

共通

4. エンジンを停止する。
► 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

駐停車操作

⚠注意

停車中の空ぶかしはしない。
万一、セレクトレバーが[P] [N]以外に入っていた場合、思わぬ急発進のもとになります。

車が完全に止まらないうちに[P]に入れないでください。
トランスミッション破損の原因となります。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂で[P] [N]以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

運転

次ページに続く

仮眠するときは、エンジンを停止してください。
► 無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐車する

⚠注意

駐車時はエンジンを停止する。
万一、セレクトレバーがP N以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。
車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

積雪時は、フロントワイパーアームは起こしてください。リヤワイパーアームはガラスから離して固定してください。
雪の重みでアームの取り付け部が破損することがあります。
ワイパーブレードラバーの交換 P.130

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。
パーキングブレーキをかけずに、石などで輪留めをしてください。

指定燃料について

■指定燃料

無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン（E10/ETBE22）

■タンク容量

マニュアル車
3速オートマチック車　37リットル

4速オートマチック車　36リットル

給油のしかた



1. 運転席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. エンジンを停止させる。
3. 運転席右脇にあるフューエルリッドオープナーを後方に押してリッドを開ける。

次ページに続く

» 指定燃料について

アドバイス

指定燃料以外の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油）を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

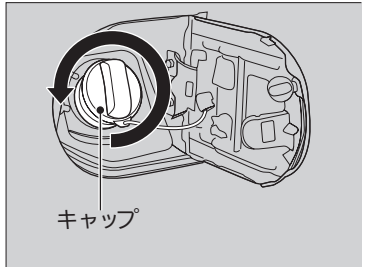
» 給油のしかた

⚠警告

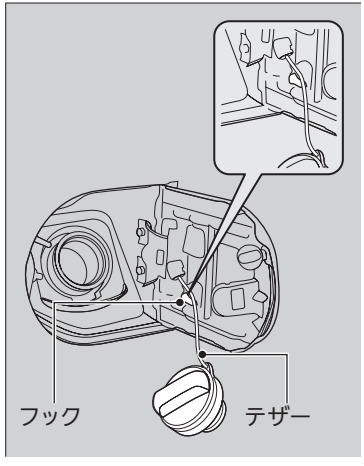
燃料補給時は火気厳禁。
燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

- エンジンは常に停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。



4. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。



5. テザーをフックにかける。

6. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
▶ 満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。

給油のしかた

⚠警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。
静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

⚠注意

キャップはゆっくり開ける。
急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。
燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

燃料蒸気を吸わないでください。
燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

7. 給油後、「カチッ」という音が 1 回以上するまでキャップを締め付ける。
▶ フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉めます。

給油のしかた

⚠注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。
閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないでください。
純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
  ► アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。

車の改造

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

- 適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりします。
- Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。
- 車の改造はしないでください。不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故を起こす場合があります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

車の改造

車の性能、品質を維持するために、Honda 車に最も適したHonda 純正部品をお使いください。

純正部品には下記のマークが付いています。

HONDA

GENUINE PARTS

お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。



メンテナンスの前に
- 点検整備について 114
- メンテナンスを安全に行うために 115
- メンテナンスに関する注意事項 115

ボンネット内とその他のメンテナンス 116
- ボンネット内とその他のメンテナンス項目 116
- ボンネットを開ける 118
- リッドの取り外し 119
- エンジンオイル注入口 121
- 推奨エンジンオイル 122
- ウィンドウォッシャー液の補給 122

電球の交換 123

ワイパーブレードラバーの点検と整備 130

タイヤの点検と整備
- タイヤの点検 133
- タイヤとホイールの交換 134
- タイヤのローテーション 135
- 冬期のタイヤ 136

キーレスエントリー 139
- キーレスエントリーの取り扱いと電池交換 139

エアコンのお手入れ 140

清掃 141
- 日常のお手入れ 141
- 車内の清掃 141
- 車外の清掃 143

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。
普段と違う点（音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど）に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。
点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

■ 点検整備の種類

■日常点検
長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検
12 か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他
新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は、Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。
お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

■ メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける

■ 車についての安全事項

- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する
  ▶ エンジンを始動するときは必ず十分な換気を行ってください。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する
  ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する
  ▶ 指示されたとき以外は、エンジンを始動しないでください。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
  ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

メンテナンスに関する注意事項

■ メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

メンテナンスを安全に行うために

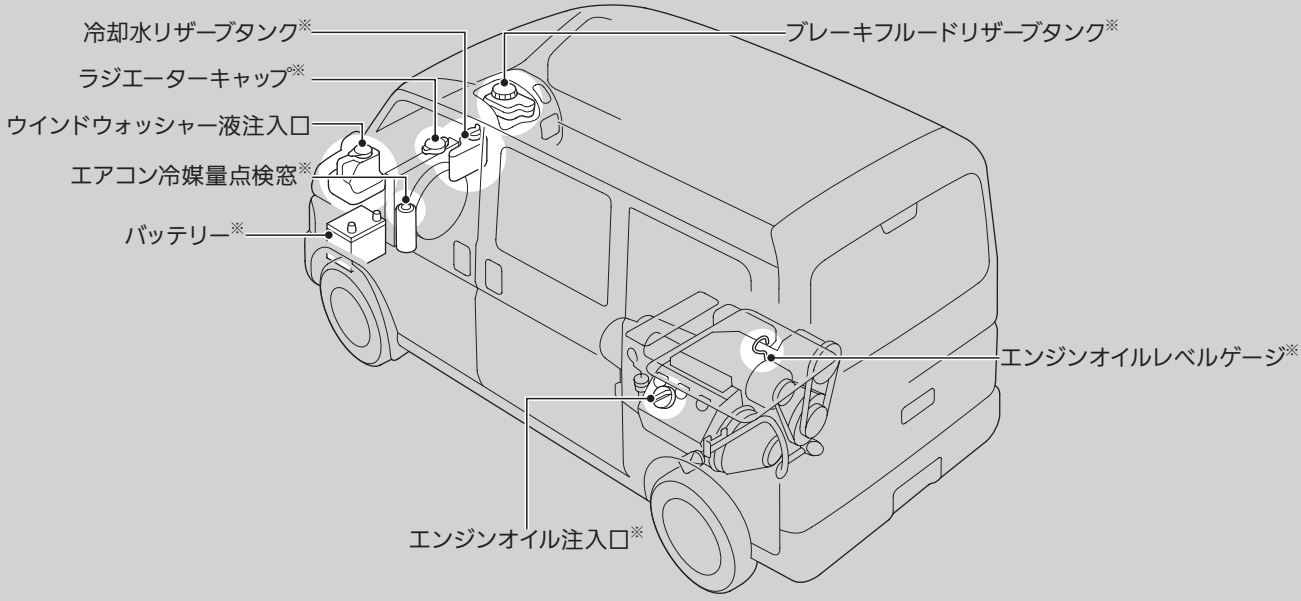
⚠警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。
走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。
必ず、この取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。
必ず、この取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

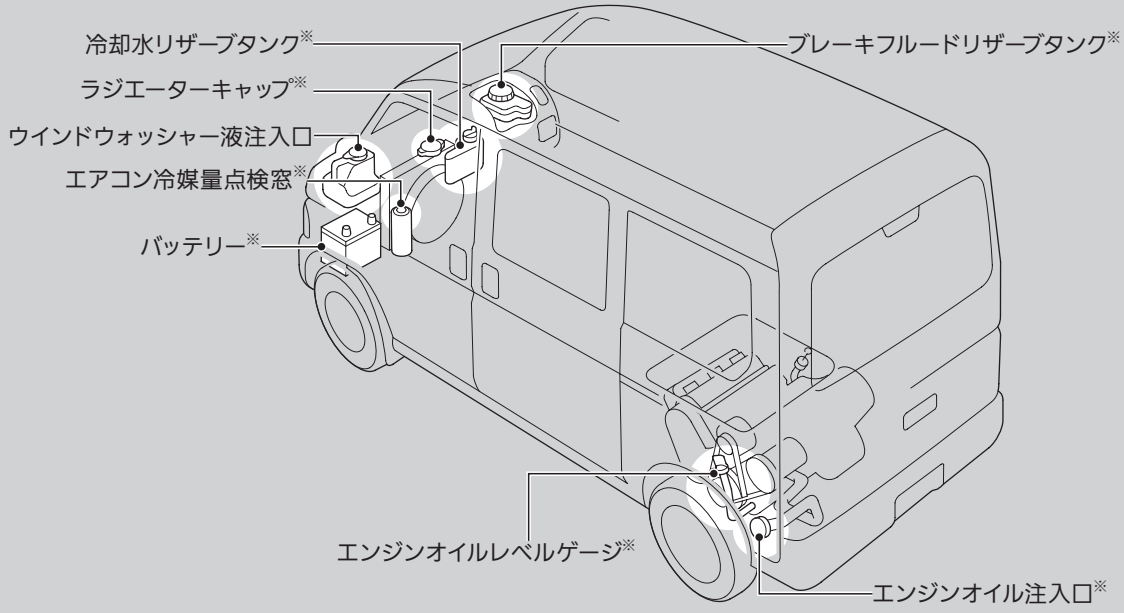
ボンネット内とその他のメンテナンス項目

■4 速オートマチック車



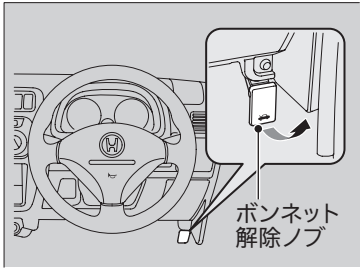
※点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

■マニュアル車、3 速オートマチック車

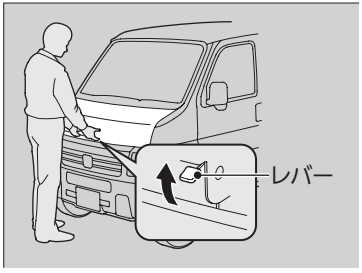


※点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

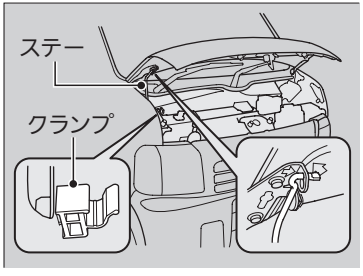
ボンネットを開ける



1. 車を停め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
▶ ボンネットが少し浮き上がります。



3. ボンネット中央のレバーを上に押しながらロック機構を解除し、ボンネットを開ける。



4. ステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約 25cm の高さから手を離します。

▨ボンネットを開ける

⚠注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

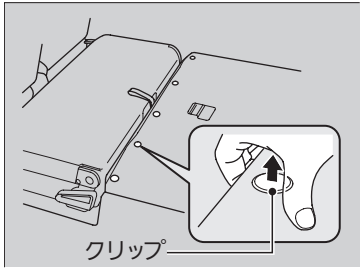
アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。
ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

リッドの取り外し

エンジンルームリッドとメンテナンスリッドは下記の手順で取り外します。

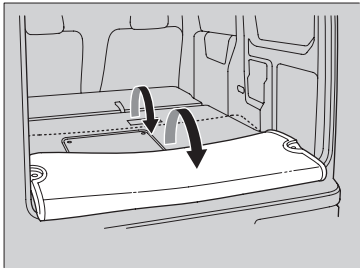


共通操作

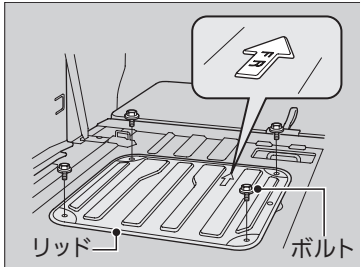
1. リヤシート ❖ を収納する。

リヤシートの収納 P.68

2. フロアマットのクリップを外す。



3. フロアマットを前方から後方へめくる。



■エンジンルームリッドの取り外し

マニュアル車、3 速オートマチック車

4. ボルト（4 本）を外し、リッドを外す。

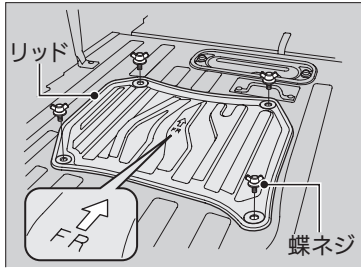
リッドの取り外し

リッドは熱くなっていることがありますので取り扱いには気をつけてください。

エンジンルームリッドを取り付けるときは、リッドの矢印を車両の前方に向けます。

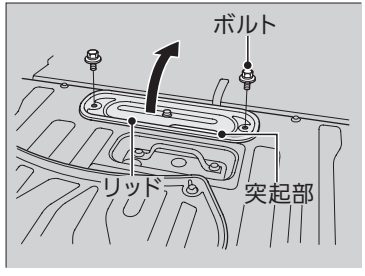
次ページに続く

❖：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



4速オートマチック車

4. 蝶ネジ（4 本）を外し、リッドを外す。



4速オートマチック車

■メンテナンスリッドの取り外し

5. ボルト（2本）を外し、リッドを外す。

■元に戻すとき

元に戻すときは逆の手順で行います。

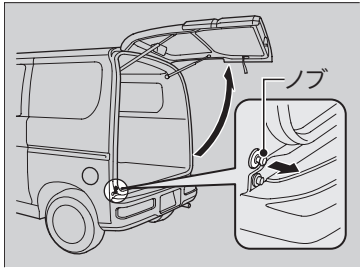
リッドの取り外し

4速オートマチック車

メンテナンスリッドを取り付けるときは、リッドの突起部を車両の後方に向けます。

エンジンオイル注入口

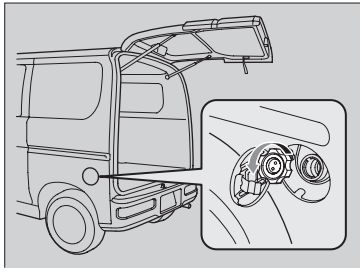
■ エンジンオイル注入口の開閉



マニュアル車、3 速オートマチック車

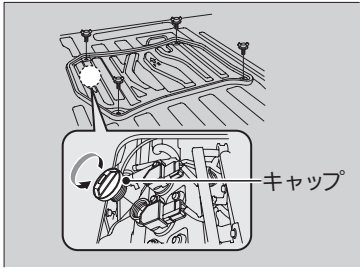
1. テールゲートを開ける。
➡**テールゲートの開閉**P.52

2. カーゴスペース開口部左下にあるノブを引いてリッドを開ける。



3. キャップを回して開ける。

4. エンジンオイル補給後は、キャップが止まるまで回す。
▶ リッドは手で押さえつけて閉めます。



4 速オートマチック車

1. エンジンルームリッドを外す。
➡**リッドの取り外し**P.119

2. キャップを回して開ける。

3. エンジンオイル補給後は、キャップが止まるまで回す。

4. エンジンルームリッドを取り付ける。

» エンジンオイル注入口の開閉

マニュアル車、3速オートマチック車

エンジンオイル注入口を開けているときは助手席側のスライドドアを開けないでください。

推奨エンジンオイル

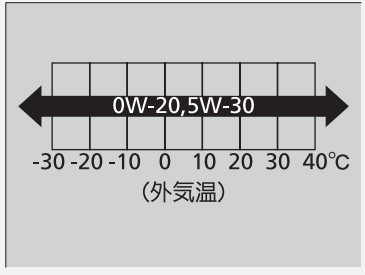
エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながることがあります。



推奨エンジンオイル：
Honda純正エンジンオイル、
➡Honda純正オイル P.170,172
API SMもしくはSN級以上かオイル缶にAPI CERTIFICATION（エーピーアイサーティフィケーション）マークの入ったエンジンオイル

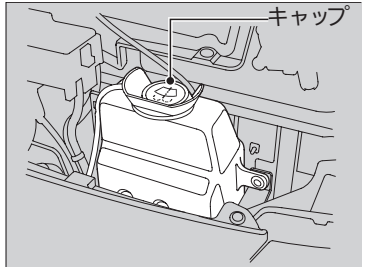
推奨エンジンオイル

市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。



冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。
冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

ウィンドウォッシャー液の補給



ウォッシャー液の量を確認します。減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

ウィンドウォッシャー液の補給

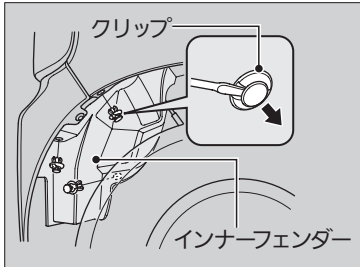
ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。

冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

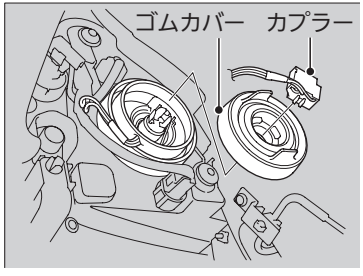
ヘッドライト電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

ハイ/ロービームヘッドライト：12V-60/55W



1. 交換する側にハンドルをいっぱいに切る。
2. クリップを抜き、インナーフェンダーをめくる。



3. カプラーを外す。
4. ゴムカバーを外す。

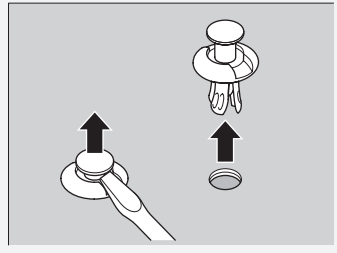
次ページに続く

ヘッドライト電球

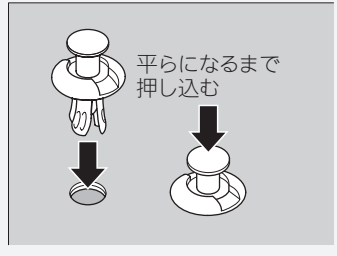
アドバイス

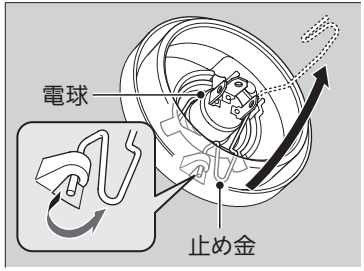
ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。
また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

クリップを外すときは、クリップの切り欠き部にマイナスドライバーを差し込んで、中央部のピンを起こして取り外します。

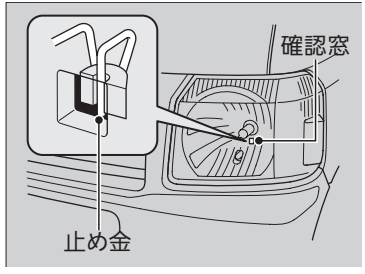


クリップを取り付けるときは、クリップ中央部のピンを起こしたまま差し込み、ピンを平らになるまで押してください。





5. 止め金を外し、古い電球を取り外す。
6. 新しい電球を取り付ける。



7. 止め金を元に戻し、ゴムカバーを取り付ける。
▶ 止め金の状態は、ヘッドライトの確認窓より確認できます。
8. カプラーを取り付ける。

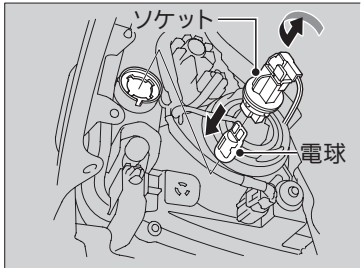
▨ ヘッドライト電球

扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。
ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

前面方向指示器/前面非常点滅表示灯：12V-21W

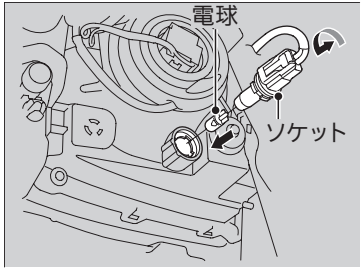


1. 交換する側にハンドルをいっぱいに切る。
2. クリップを抜き、インナーフェンダーをめくる。
   ➡**ヘッドライト電球**P.123
3. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

車幅灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

車幅灯：12V-5W

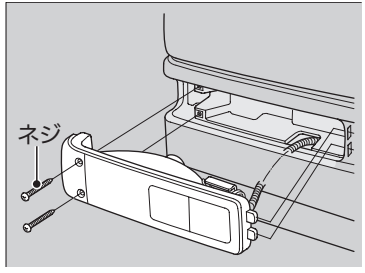


1. 交換する側にハンドルをいっぱいに切る。
2. クリップを抜き、インナーフェンダーをめくる。
   ➡**ヘッドライト電球**P.123
3. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

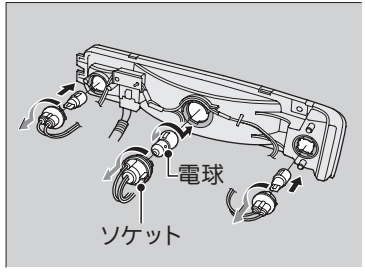
制動灯 / 尾灯、後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯、後退灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

制動灯/尾灯	:12V-21/5W
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	:12V-18W
後退灯	:12V-18W



1. ネジを外し、ランプ本体を外側へ開くように動かして外す。



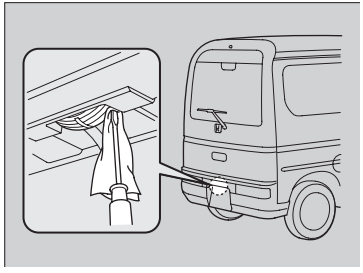
2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
▶ 制動灯 / 尾灯電球は、電球を押しながら左へ回して抜き取ります。

3. 新しい電球を差し込む。

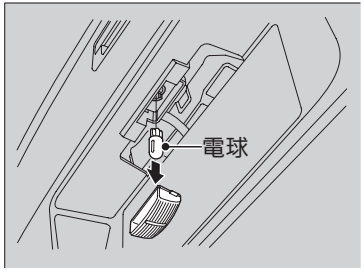
番号灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

番号灯：12V-5W



1. レンズの側面を押しながらレンズを外す。

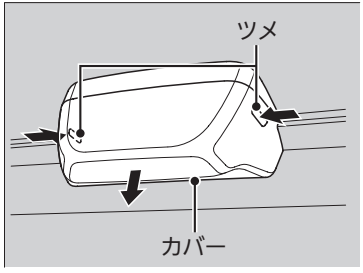


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

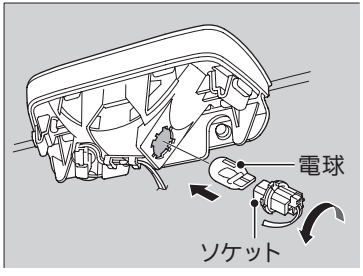
ハイマウントストップランプ電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

ハイマウントストップランプ：12V-21W



1. カバーのツメを押しながら、カバーを取り外す。



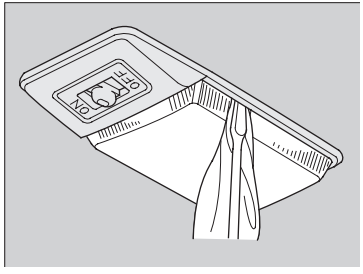
2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

その他の電球

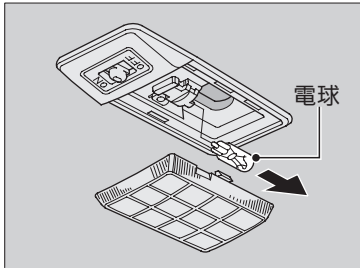
■ 室内灯、カーゴスペース照明灯

下記の電球をご使用ください。

室内灯、カーゴスペース照明灯：12V-5W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

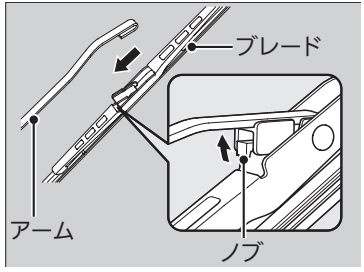


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

ワイパーブレードラバーの点検

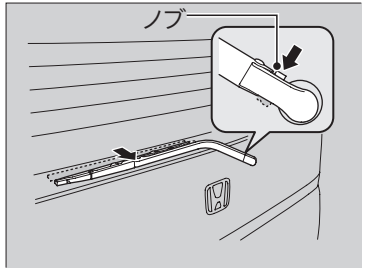
ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

ワイパーブレードラバーの交換



フロント

1. ワイパーアームを起こす。
2. ノブを押し上げながら、アームからブレードをスライドさせて外す。



リヤ

1. ワイパーを引きながらノブを押す。
   ▶ ブレードが浮き上がり、ガラスから離れたまま固定されます。

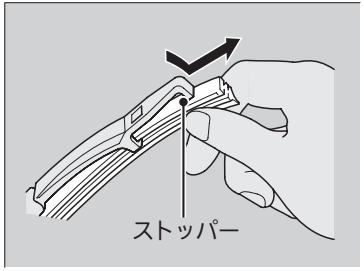
» ワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

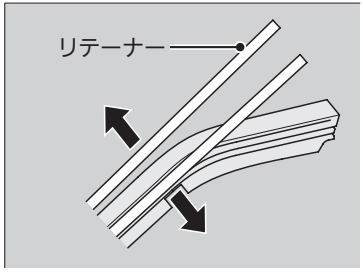
アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが破損するおそれがあります。

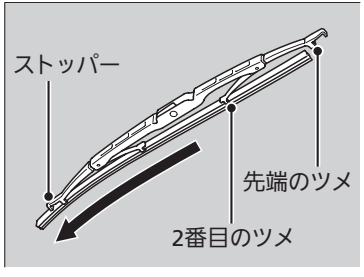


共通操作

3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。



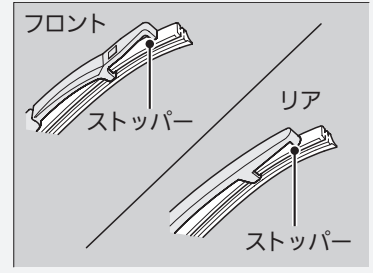
4. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。



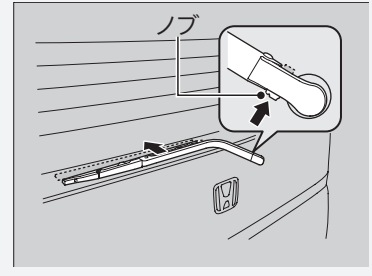
5. ラバーをブレードの 2 番目のツメから差し込み、反対側のストッパーから約 2cm 引き出す。

ワイパーブレードラバーの交換

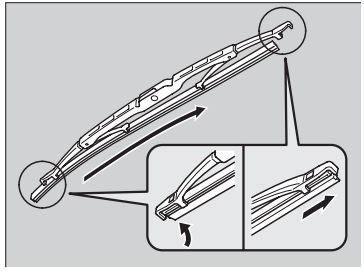
フロントワイパーとリヤワイパーではストッパーの形状などが異なりますが、同じ手順でラバーを交換できます。



リヤワイパーを戻すときは、ワイパーを持ち上げ、反対側のノブを押すと元に戻ります。



次ページに続く



6. ブレードの先端のツメにラバーを通して固定する。
► 正しく固定されているか確認してください。フロントワイパーは、その後ブレードをワイパーアームに取り付けます。

タイヤの点検

■ タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。
安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
  ► つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
  ► 状況に応じて、タイヤを交換してください。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

➡仕様 P.171, 173

次ページに続く

タイヤの点検について

⚠警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

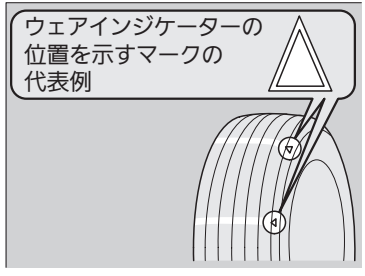
指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。
この取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。
必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。
タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
  ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
  ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



ウェアインジケーター（摩耗限界表示）

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm 浅くなっています。接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての 4 つのタイヤを交換することをお奨めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

タイヤの点検について

タイヤの残溝の深さが2.4mm未満のときは、80km/h以上の高速走行をしないでください。

標準タイヤの仕様

サイズ	空気圧
145R12-8PR LT	前輪：220kPa(2.2kgf/cm^2) 後輪：450kPa(4.5kgf/cm^2)

タイヤとホイールの交換

⚠警告

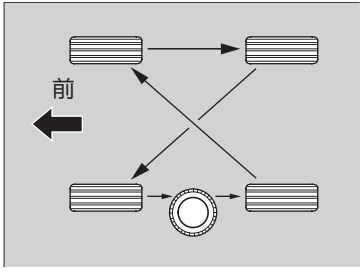
必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

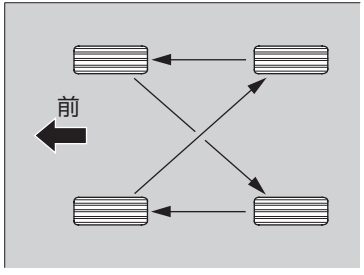
5,000km 走行したごとにタイヤローテーションをしてください。
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■スペアタイヤを使う場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

■スペアタイヤを使わない場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

» タイヤのローテーション

アドバイス

前輪と後輪でタイヤの空気圧が異なるので、位置交換後は必ず空気圧調節をしてください。

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。
また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

タイヤチェーンおよびスノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。
装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

■ スノータイヤ

- 四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

■ タイヤチェーン

お求めは Honda 販売店へお申し付けください。

タイヤサイズ	適合チェーンサイズ
145R12-8PR LT	スチールチェーン　45170（新 JIS）

- タイヤチェーンは後輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

スチールチェーン以外のタイヤチェーンをご使用になる場合は、タイヤチェーンに付属の取扱説明書にしたがって、正しく取り付けてください。

» 冬期のタイヤ

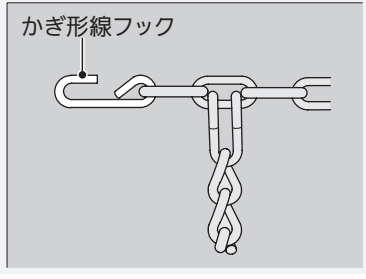
アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。
チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

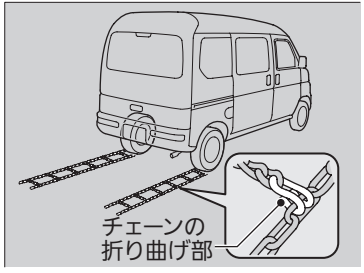
タイヤチェーンは、2WD車、4WD車ともに後輪に装着します。
前輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンを装着したときは、30km/h以下の速度で走行してください。
なお、乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

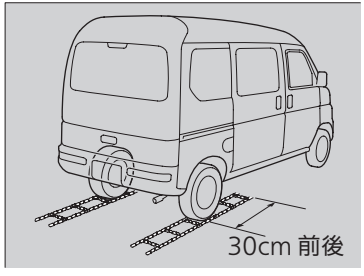
スチールチェーンは内側のフック形状が、かぎ形線フックのものをお使いください。



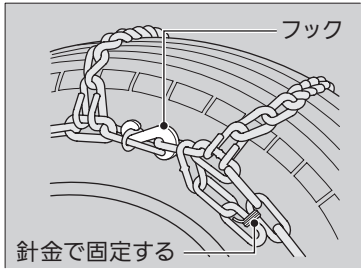
■タイヤチェーンの取りつけかた



1. 前輪を直進状態にする。
2. チェーンの折り曲げ部が下側になるようにしてチェーンを後輪のすぐ後ろに敷く。

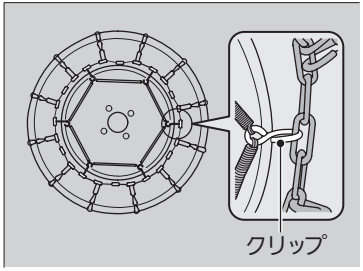


3. 先端のフックから 30cm 前後の位置まで後輪を移動させる。



4. チェーンをタイヤに巻きつけていっぱいに引き、内側のフックを連結する。
5. 外側のフックを連結する。
▶ 連結してチェーンが余った場合は、ボディーなどに当たるのを防ぐために針金で固定します。

次ページに続く



6. チェーンバンドのクリップを外向きにしてチェーンをいっぱいに張る。
7. 試走してチェーンのゆるみ、はずれなどがないか確認する。

キーレスエントリーの取り扱いと電池交換

■ 取り扱いについて

キーレスエントリーの取り扱いは、下記の点に注意してください。

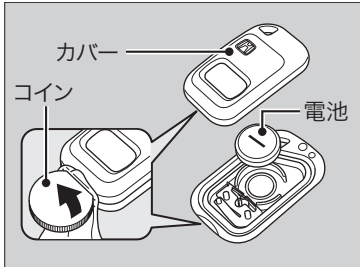
- 発信器を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

» 取り扱いについて

キーレスエントリーをなくした場合は、Honda販売店へご連絡ください。

■ 電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。



ボタン電池 CR1616

1. カバーを外す。
► カバーに傷が付かないように、コインに布などを巻いてカバーを取り外します。

2. ⊕と⊖を間違えないよう、電池を交換する。

» 電池交換のしかた

⚠注意

電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。
飲み込むと傷害を受けるおそれがあります。

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda販売店での交換をおすすめします。

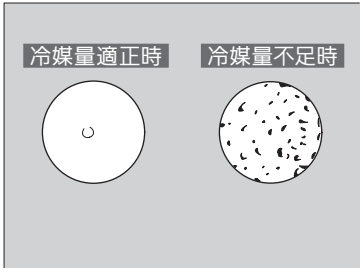
電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。
確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池はHonda販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

■ エアコン冷媒量の点検

エアコンの冷媒（ガス）が不足していると、冷房性能が低下します。
エンジン回転を 1.500rpm くらいに上げて、 2～3分間冷房した後、 点検窓で点検します。

ボンネット内とその他のメンテナンス項目P.116



エアコン冷媒量の点検

冷媒量適正時はほとんど透明です。エンジン回転を上げ下げすると気泡が流れることがあります。

冷媒（ガス）量が不足している場合は、Honda販売店で点検、補充を受けてください。

日常のお手入れ

■ 走行後のお手入れ

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

■ 洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。
以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵やほこりを取り除いてから汚れを落としてください。
ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

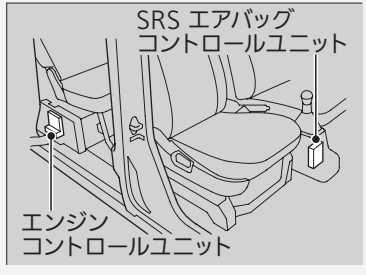
洗車について

凍結防止剤を散布した道路や、海岸地帯を走行したときの洗車は、フェンダーの内側を念入りに洗ってください。

車内の清掃

室内に水をかけないでください。
オーディオやスイッチなどの電装品に水がかかると故障の原因となります。

また、センターコンソール内にはSRSユニットが装着されています。その周囲に水がかかると、SRSユニットが正常に作動しなくなるおそれがあります。



オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda販売店にご相談ください。

次ページに続く

■ シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

■ ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

車内の清掃

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。
ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

ガラスのお手入れ

リヤガラスは、ガラスの内側に電熱線やアンテナ線が装着されています。
傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

車外の清掃

洗車は、十分に水をかけながら、下回り、足回りの汚れを落とします。塗装面は、屋根から順に下のほうへ水をかけながら、スポンジかセーム革のような柔らかいもので洗います。
汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い、水で完全に洗剤を落としてから水が乾かないうちに拭き取ります。

■ 自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納する
- アンテナを格納する

■ 高圧洗浄機を使うとき

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ウィンドーまわりは、近づけすぎると室内に水が入ることがあるため、特に注意して行う
- エンジンルームには水をかけない

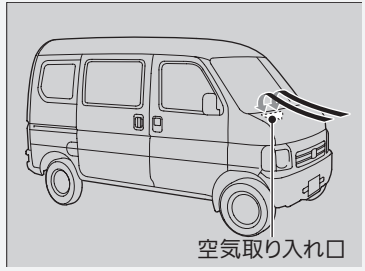
■ ワックスをかけるとき

ワックスは、月に１回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面温度が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

次ページに続く

» 車外の清掃

故意に空気取り入れ口や、エンジンルームに水をかけないでください。
故障の原因になります。



» ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉（コンパウンド）入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。
ワックスはHonda純正ケミカル用品をお使いください。

■ バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

■ ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■ ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。
これは雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。
また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

▨バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda販売店にご相談ください。
不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

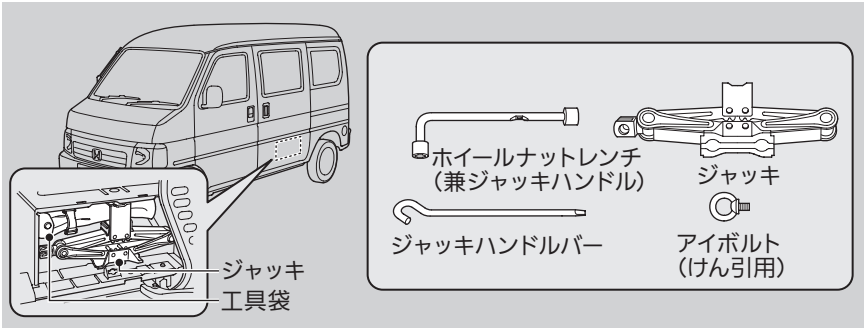
万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

工具、発炎筒 146
パンクしたとき 147
エンジンが始動しない 156
　エンジン状態の確認 156
ジャンプスタート 157
セレクトレバーが動かない 160
オーバーヒート 161
警告灯の点灯/点滅 162
ヒューズ 165
　ヒューズの設置場所 165
　各ヒューズの装備と容量 166
　ヒューズの点検と交換 167
けん引 168

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

工具の種類



発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

発炎筒 P.1

工具の種類

工具類は左側後席足元の収納ボックスに収納されています。

発炎筒

⚠警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。
火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

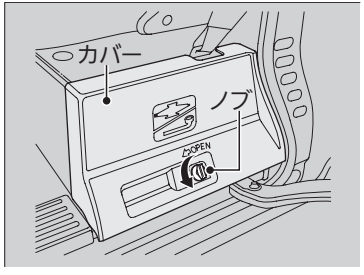
パンクしたタイヤの交換

運転中にタイヤがパンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。その後、スペアタイヤに交換します。パンクしたタイヤの点検や交換は、Honda 販売店に依頼してください。

■ 走行中、パンクに気がついたときは

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. セレクトレバーを[P]に入れる。（オートマチック車）
3. パーキングブレーキをかける。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、エンジンスイッチを[0]にする。

■ タイヤ交換の準備



1. 左側後席足元の収納ボックスのノブを回してカバーを外す。

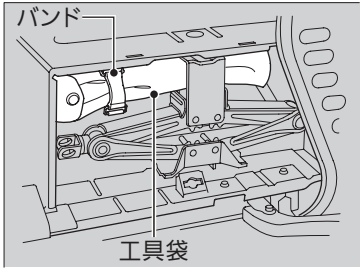
次ページに続く

パンクしたタイヤの交換

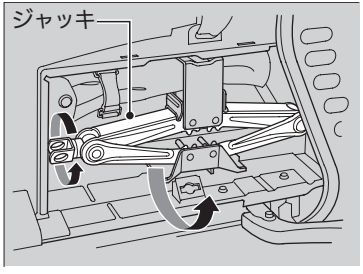
⚠注意

キャリアからタイヤを取り出すときや収納するときはエンジンを切る。
エンジンをかけたままにすると排気管でやけどを負う恐れがあります。

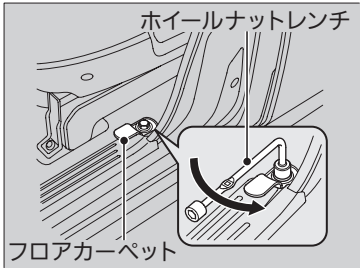
スペアタイヤの空気圧は使うときに調節してください。やむをえず、未調節のまま走る場合は、速度を控えめにしてください。



2. バンドを外し、工具袋を取り出す。



3. ジャッキをゆるめて外す。

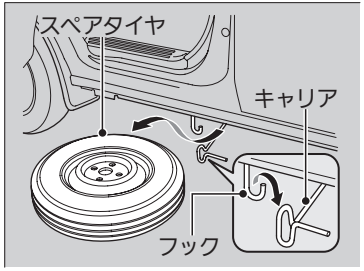


4. フロアカーペットをめくりホイールナットレンチで固定ボルトをゆるめる。

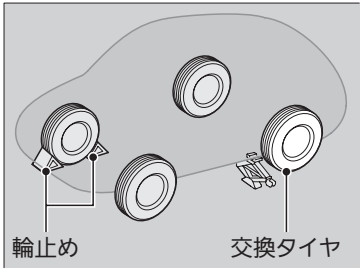
タイヤ交換の準備

⚠注意

固定ボルトをゆるめすぎない。
フックが固定ボルトから外れ、キャリアが落下し、足などにけがをするおそれがあります。



5. フックからキャリアを外し、スペアタイヤを引き出す。

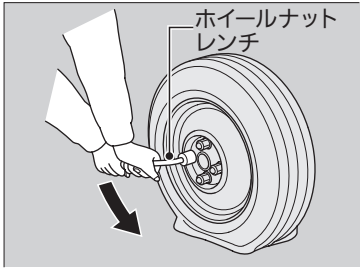


6. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪止めをする。



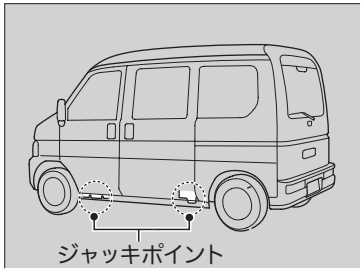
7. スペアタイヤを交換するタイヤ近くの車体の下に、ホイール表面を上にして置く。

次ページに続く

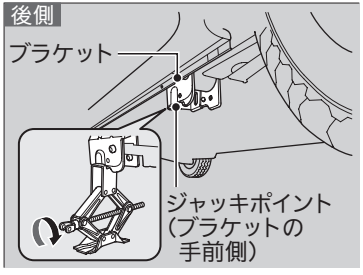


8. ホイールナットをホイールナットレンチで約1回転ゆるめる。

■ ジャッキのかけかた



1. 交換するタイヤにもっとも近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。



2. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を矢印の方向に回す。
▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。

次ページに続く

» ジャッキのかけかた

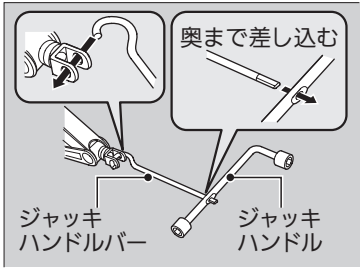
⚠警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。
車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。
- エンジンをかけたままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にものを入れたりしない

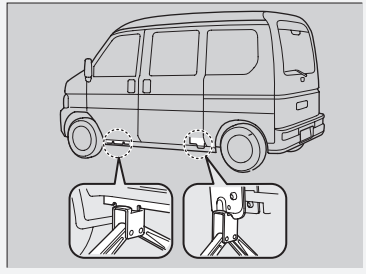
この車に搭載されているジャッキをお使いください。
他のジャッキでは支えられる重量（呼荷重）が不足したり、形状が合わないことがあります。



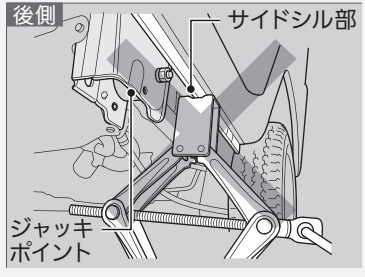
3. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

ジャッキのかけかた

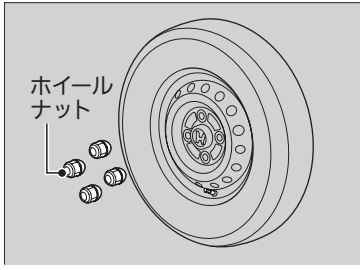
ジャッキポイントは、下記の通りです。



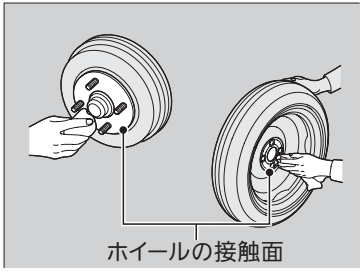
後側のジャッキポイントは、サイドシル部ではありません。



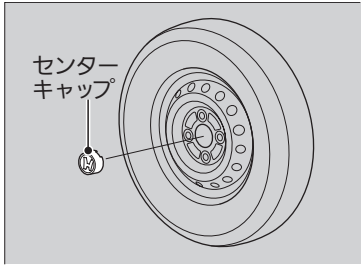
タイヤの交換



1. ホイールナットを外し、タイヤを外す。

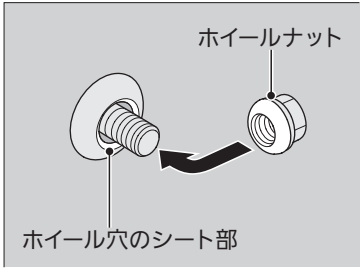


2. ホイールの接触面を拭き取る。



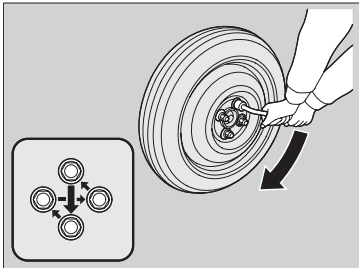
3. センターキャップを付けかえる。

次ページに続く



4. スペアタイヤを取り付ける。

5. ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締める。



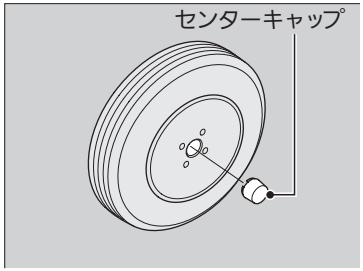
6. ジャッキをおろし、図の順に 2 ～ 3 度にわたり、ホイールナットをしっかりと締め付ける。

締め付けトルク 98 ～ 118N・m
（10.0 ～ 12.0kgf・m）

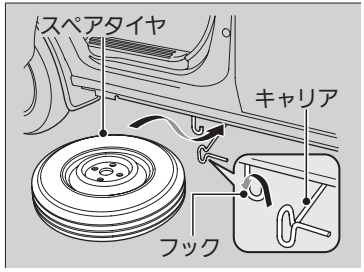
タイヤの交換

レンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め付けないでください。

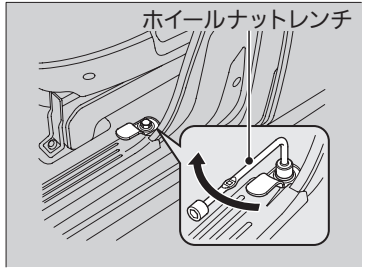
■ パンクしたタイヤの収納



1. パンクしたタイヤのセンターキャップを外す。



2. ホイール表面を上にして取り付け、フックにキャリアをかける。



3. ホイールナットレンチでゆるみ、ガタがないように固定ボルトを十分に締め付ける。

パンクしたタイヤの収納

⚠注意

タイヤを取り付けた後は、確実に固定されていることを確認する。
ゆるみ等により取り付けが不安定な状態になっていると、走行中に外れるなどして思わぬ事故の原因となるおそれがあります。

取り外しや収納するときに、手などをはさまないよう十分注意する。

エンジン状態の確認

エンジンが始動しない場合、エンジンスイッチを[III]にして、スターターの状態を確認してください。

エンジン状態の確認

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

ジャンプスタートの方法 P.157

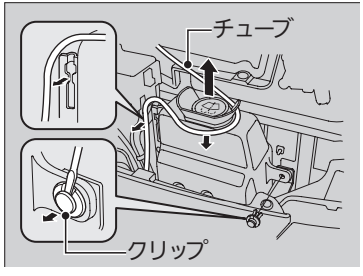
スターターの状態	確認項目
スターターが全く回らない! **スターターの回転が非常に遅い!** バッテリーがあがっていることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	**室内灯などの明るさを確認する** 室内灯などを点灯し、明るさを確認します。 • 室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合 • 室内灯などの明るさに問題がない場合 **ヒューズの点検と交換** P.167
スターターは正常に回るが… ヒューズに問題があることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	**エンジン始動の手順を実行する** もう一度、正しいエンジン始動操作をしてみてください。**エンジンの始動** P.92 **燃料の量を点検する** 燃料が入っているか確認してください。**燃料計** P.42 **ヒューズを点検する** 全てのヒューズを確認してください。。**ヒューズの点検と交換** P.167

以上の確認をしてもエンジンが始動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

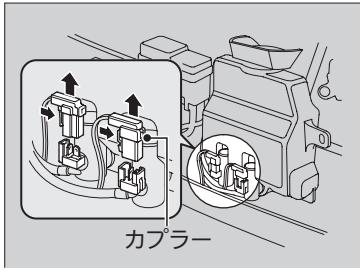
ジャンプスタートの方法

■ 処置のしかた

まず、ボンネットを開け、バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。
次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。
ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。



1. 自車と救援車のエンジンスイッチを 0 にする。
2. チューブとクリップを外してウォッシャー液タンクを取り外す。



3. ウォッシャー液タンクのカプラーを外す。

次ページに続く

» ジャンプスタートの方法

⚠警告

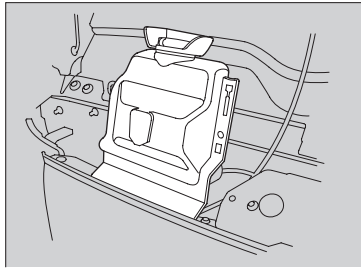
ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
ジャンプスタートの操作を間違えると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。
タバコの火、火花、炎をバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

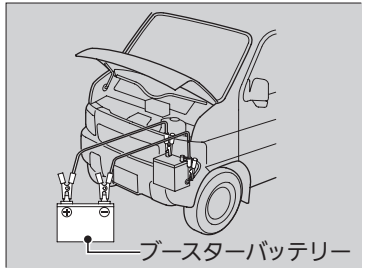
気温が極端に低い場所にバッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。
バッテリー液が凍結したバッテリーでジャンプスタートすると、バッテリーが壊れることがあります。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。
ケーブルをエンジンのアース以外の端子に接続しないでください。

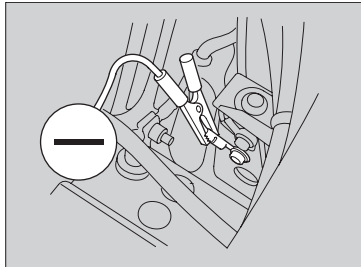
バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。



4. ウォッシャー液タンクをよせる。



5. ブースターケーブルを、自車のバッテリーの⊕端子に接続する。
6. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの⊕端子に接続する。
▶ 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。



7. もう1 本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの⊖端子に接続する。
8. ケーブルの反対側を、自車のアース端子に接続する。
9. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
10. 自車のエンジンを始動する。

ジャンプスタートの方法

寒冷時は、バッテリーの性能が低下します。
エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

■ エンジン始動後の作業

自車のエンジンが始動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のアース端子からケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの⊖端子から外す。
3. 自車のバッテリーの⊕端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの⊕端子から外す。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

エンジン始動後の作業

⚠警告

バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。
バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店でバッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。
バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

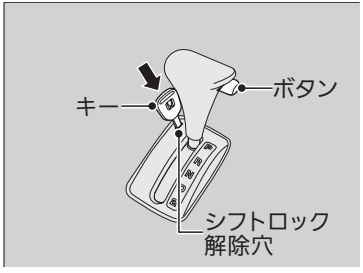
応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

セレクトレバーが動かない

セレクトレバーが、[P]の位置でロックされて動かなくなったら、下記の方法で解除してください。

■ ロックを解除する



1. パーキングブレーキをかける。
2. エンジンスイッチからキーを抜く。
3. シフトロック解除穴にキーを差し込む。
4. キーを押しながらセレクトレバーのボタンを押し、セレクトレバーを[N]に入れる。
► ロックが解除されました。Honda 販売店で、早めに点検を受けてください。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

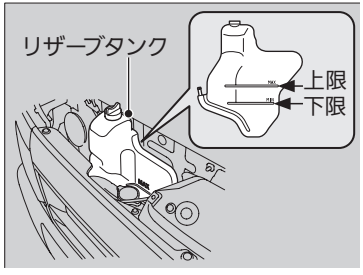
- 高水温警告灯（赤色）が点灯したり、エンジンの力が急に落ちる
- フロントコンパートメントやエンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。
► セレクトレバーを P に入れ（オートマチック車）、パーキングブレーキをかけます。すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。

2. 蒸気が出ていない場合：エンジンをかけたままボンネットを開ける。
蒸気が出ている場合：エンジンを停止し、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

■次にすること



1. 冷却ファンの作動を確認し、高水温警告灯が消灯してからエンジンを停止する。
► 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにエンジンを停止する。

2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
► 冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

- 十分にエンジンが冷えたら、エンジンを始動し高水温警告灯を確認する。
警告灯が消灯している場合は、運転を再開します。点灯しているときは、Honda 販売店に修理を依頼します。

» オーバーヒートしたときの対処方法

⚠警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。
ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。
冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

アドバイス

高水温警告灯が点灯した状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

冷却水がもれている場合は、Honda販売店に修理を依頼してください。

油圧警告灯が点灯した



■点灯の理由
エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると点灯します。

■点灯したらすぐにすること
1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。
2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること
1. エンジンを停止し、3 分間ほど放置する。
2. エンジンオイルの量を確認する。
► 必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。
3. エンジンを始動し、油圧警告灯を確認する。
► **消灯した** : 運転を再開してください。
► **10 秒以内に消灯しない** : エンジンを停止して、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

油圧警告灯が点灯した

アドバイス

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

充電警告灯が点灯した



■点灯の理由
バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること
電気の消費を減らすため、エアコン、リヤデフロスターなどを OFF にして、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、エンジンを停止しないでください。
エンジンを始動すると、バッテリーが急速に放電します。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した



■点灯 / 点滅の理由

エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

■点灯したときは

高速走行を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは

枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを停止して冷えるまでお待ちください。

ブレーキ警告灯が点灯した



■点灯の理由

ブレーキフルードが減っているときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

PGM-FI警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

PGM-FI警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

エンジン再始動後、再び点滅するときは、50km/h以下の速度で最寄りのHonda販売店まで走行し点検を受けてください。

ブレーキ警告灯が点灯した

ただちに、Honda販売店に修理を依頼してください。
ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。

ABS警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。
高速走行や急ブレーキを避けてください。
ただちに、Honda販売店に修理を依頼してください。

EPS（電動パワーステアリング）システム 警告灯が点灯した



■点灯の理由

- EPS が異常のときに点灯します。
- 停車中にエンジンの空ぶかしを行うと点灯し、ハンドルが重くなる場合があります。

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車し、エンジンを再始動する。

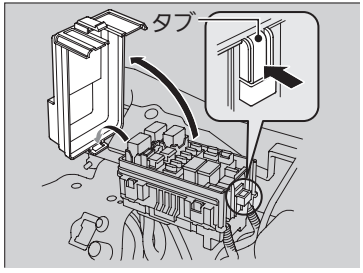
その後も走行中に点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、エンジンスイッチを[0]にして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、2 つのヒューズボックスに入っています。

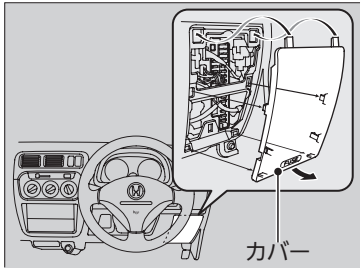
■ フロントコンパートメント内のヒューズボックス

フロントコンパートメント内のウォッシャー液タンクの隣にあります。
タブを押して開けてください。



■ 運転席足元のヒューズボックス

運転席足元にあります。カバーを引いて開けてください。



» フロントコンパートメント内のヒューズボックス

ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。
該当するヒューズの位置を確認してください。

» 運転席足元のヒューズボックス

カバーの裏に貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。
該当するヒューズの位置を確認してください。

各ヒューズの装備と容量

■ フロントコンパートメント内

容量に（ ）がついているヒューズは、装備がない場合でもヒューズが入っている場合があります。

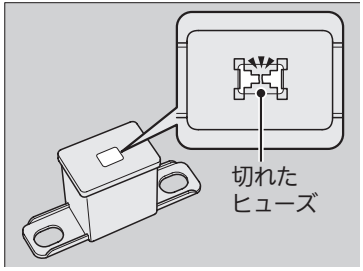
	装備	容量
1	バッテリー	60A
2	イグニッション	40A
3	EPS モーター	(40A)
4	ABS モーター	(40A)
5	ABS ソレノイド	(20A)
6	非常点滅表示灯	10A
7	ホーン	10A
8	冷却ファン	30A
9	MG クラッチ	7.5A
10	右側ヘッドライト	10A
11	左側ヘッドライト	10A
12	バックアップ	10A

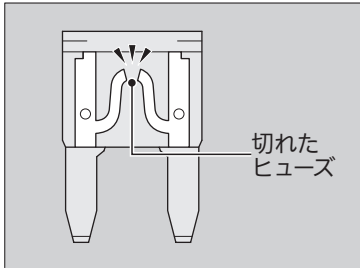
■ 運転席足元

容量に（ ）がついているヒューズは、装備がない場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1	FR	ヒーターモーター	20A
2	DR	運転席パワーウィンドー	(20A)
3		ドアロック	(20A)
4	—	—	—
5		後退灯	7.5A
6		LAF	20A
7		イグニッションコイル	15A
8		シガーライター	15A
9		方向指示器	7.5A
10		フロントワイパー	20A
11		フューエルポンプ	15A
12		リヤデフロスター	(20A)
13	—	—	—
14	AS	助手席パワーウィンドー	(20A)
15		SRS エアバッグシステム	10A
16		メーター	7.5A
17		アクセサリー	7.5A
18		—	(20A)
19		オーディオ	10A
20		IGP	15A
21		リヤワイパー	(10A)
22		HAC	7.5A
23	RR	—	7.5A

ヒューズの点検と交換





1. エンジンスイッチを 0 にし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。
2. フロントコンパートメント内の大きいヒューズを点検する。
   ▶ 切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。
3. フロントコンパートメント内と、運転席足元の小さいヒューズを点検する。
   ▶ 切れているヒューズがあったら、新しいものと交換してください。

» ヒューズの点検と交換

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。
交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda販売店で点検を受けてください。

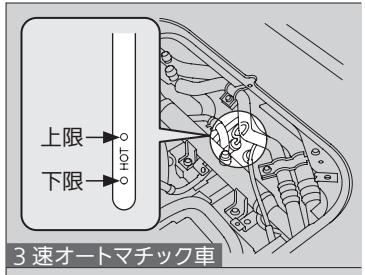
ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。
➲各ヒューズの装備と容量 P.166

非常時のけん引

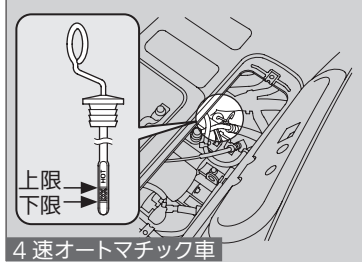
けん引は、専門業者に依頼して 2WD 車は四輪または後輪、4WD 車は四輪を持ち上げて行ってください。

■ やむをえずけん引される場合

やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合、次の方法で行ってください。



3 速オートマチック車



4 速オートマチック車

3 速オートマチック車

1. エンジンルームリッドを外す。

リッドの取り外しP.119

4 速オートマチック車

1. メンテナンスリッドを外す。

リッドの取り外しP.119

オートマチック車

2. トランスミッションフルードの量が、油量計の目盛りの上限と下限の間にあることを確認する。

► 下限より下がっている場合は、四輪または後輪を接地させてのけん引は行わないでください。

共通操作

3. 左側後席足元の収納ボックスのカバーを開け、工具袋を取り出す。

4. 工具袋からジャッキハンドルバーとアイボルトを取り出す。

非常時のけん引

アドバイス

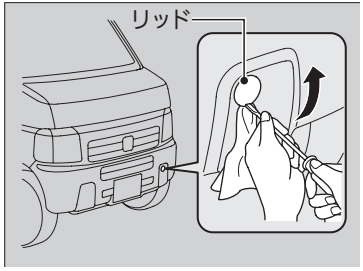
バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。

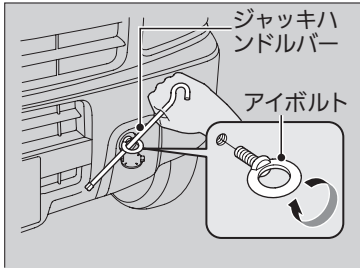
バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

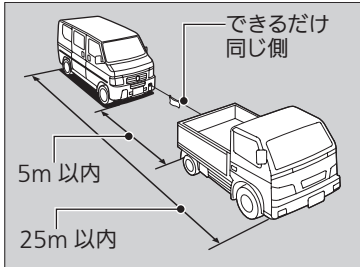
車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、2WD車は四輪または後輪、4WD車は四輪を持ち上げてけん引してください。

オートマチック車

リッドは熱くなっていることがありますので、取り扱いにはご注意ください。







5. マイナスドライバーの先でリッドを開ける。
▶ バンパーが傷付かないよう、マイナスドライバーの先に布などを巻き付けてください。

6. アイボルトがガタつかない程度まで手で締め付けてから、ジャッキハンドルバーで確実に締め付ける。

7. ロープをアイボルトにかけ、ロープ中央部に白い布（0.3m 平方以上）を付ける。

8. マニュアル車は、エンジンを始動する。オートマチック車は、エンジンを始動してセレクトレバーを[D]にし、約 5 秒間保持する。
▶ エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを[I]または[II]にします。

9. セレクトレバーまたはチェンジレバーを[N]（ニュートラル）にする。

10. パーキングブレーキを解除する。

11. 速度 30km/h 以下、走行距離 80km 以内でけん引する。
▶ けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

非常時のけん引

アドバイス

アイボルト以外のところにロープをかけないでください。
車体が破損、変形する場合があります。

エンジンが停止している状態でのけん引は、以下のことに注意してください。
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる
- マニュアル車は、エンジンスイッチを[0]にするとハンドルがロックされハンドル操作ができなくなるため、事故につながるおそれがある

長い下り坂では、ブレーキの温度が上がりブレーキが効かなくなるおそれがありますので、レッカー車にけん引してもらってください。

車両後方には、けん引フックはありません。
後方からけん引する必要がある場合は、Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。



仕様: 4AT車 171
仕様: 5MT車、3AT車 172

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

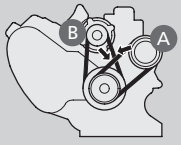
仕様 : 4AT 車

■仕様

名称	アクティ
排気量	656 cm^3
車体形状	ルートバンハイルーフ
乗車定員	4名

■調節

ベルトのたわみ量



A :	補機ベルト（発電機）	8.0〜10.0mm {約98N (10kgf) の力}
B :	補機ベルト（エアコンディショナー）	8.0〜10.0mm {約98N (10kgf) の力}

点火プラグ	NGK	IFR6C9N
	DENSO	SK20PR-N9
電極のすき間	基準値	0.8-0.9mm

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	1-10mm
	床板とのすき間	87mm以上 {約196N (20kgf) の力}
	カーペットとのすき間 (参考値)	81mm以上 {約196N (20kgf) の力}
パーキングブレーキ	引きしろ	8〜12ノッチ {約196N (20kgf) の力}

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン（E10/ETBE22）
燃料タンク容量	36ℓ

■バッテリー

容量/タイプ	28AH (5) /38B19L

■ウォッシャー液

タンク容量	2.5ℓ

■電球

ヘッドライト（ハイ/ロービーム）	12V-60/55W※1
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯	12V-21W (橙色)
車幅灯	12V-5W
制動灯/尾灯	12V-21/5W
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	12V-18W
後退灯	12V-18W
ハイマウントストップランプ	12V-21W
番号灯	12V-5W
室内灯	12V-5W
カーゴスペース照明灯	12V-5W

※1 : ハロゲンバルブ

■フロントデファレンシャルオイル

指定液	Honda純正ウルトラHGO-μ
規定量	0.52ℓ（交換時）

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■ブレーキフルード

指定液	Honda純正ブレーキフルードDOT3またはDOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda純正 ウルトラATF-Z1	1.9ℓ（交換時）

■推奨エンジンオイル

Honda純正エンジンオイル	ウルトラLEO SN	API SN級 SAE 0W-20※2
	ウルトラLTD SN	API SN級 SAE 5W-30
規定量	オイル交換時	2.8ℓ
	オイル、オイルフィルター同時交換時	3.0ℓ

※2 : 0W-20は、最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda純正ウルトラeクーラント
規定濃度	50%
規定量	4.6ℓ（交換時 : リザーブタンク0.9ℓ含む）

■最大積載量

250kg (2名乗車時)
150kg (4名乗車時)

■タイヤ

サイズ	145R12-8PR LT
空気圧 kPa (kgf/cm^2)	前輪 220 (2.2)
	後輪 450 (4.5)
リムサイズ（スチールホイール）	12×3.50B

仕様 : 5MT 車、3AT 車

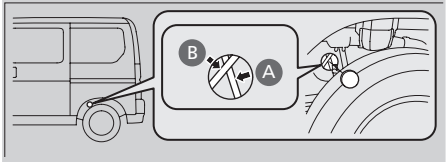
■仕様

名称	アクティ
排気量	656 cm^3
車体形状	ルートバンハイルーフ
乗車定員	2名、4名※1

※1 : リヤシート装備車

■調節

ベルトのたわみ量



A :	補機ベルト（発電機）	8.0〜10.0mm {約98N (10kgf) の力}
B :	補機ベルト（エアコンディショナー）	8.0〜10.0mm {約98N (10kgf) の力}

点火プラグ	NGK	IFR6C9N
	DENSO	SK20PR-N9
電極のすき間	基準値	0.8-0.9mm

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	1-10mm
	床板とのすき間	83mm以上※2 {約196N (20kgf) の力}
		87mm以上※3 {約196N (20kgf) の力}
	カーペットとのすき間 (参考値)	77mm以上※2 {約196N (20kgf) の力}
		81mm以上※3 {約196N (20kgf) の力}
クラッチペダル※2	遊び	15-25mm
	床板とのすき間	72mm以上（クラッチが切れたとき）
	カーペットとのすき間（参考値）	66mm以上（クラッチが切れたとき）
パーキングブレーキ	引きしろ	8〜12ノッチ {約196N (20kgf) の力}

※2 : マニュアル車
※3 : オートマチック車

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン（E10/ETBE22）
燃料タンク容量	37ℓ

■バッテリー

容量/タイプ	24AH (5) /28B17L※2
	28AH (5) /38B19L※3

■ウォッシャー液

タンク容量	2.5ℓ

■電球

ヘッドライト（ハイ/ロービーム）	12V-60/55W※4
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯	12V-21W (橙色)
車幅灯	12V-5W
制動灯/尾灯	12V-21/5W
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	12V-18W
後退灯	12V-18W
ハイマウントストップランプ	12V-21W
番号灯	12V-5W
室内灯	12V-5W
カーゴスペース照明灯	12V-5W

※4 : ハロゲンバルブ

■フロントデファレンシャルオイル 4WD車のみ

指定液	Honda純正ウルトラHGO-μ
規定量	0.46ℓ（交換時）※2

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■ブレーキフルード

指定液	Honda純正ブレーキフルードDOT3またはDOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda純正ウルトラATF-Z1	1.5ℓ（交換時）※3
	Honda純正ウルトラMTF-III	1.2ℓ（交換時）※2

■推奨エンジンオイル

Honda純正 エンジンオイル	ウルトラLEO SN	API SN級 SAE 0W-20※5
	ウルトラLTD SN	API SN級 SAE 5W-30
規定量	オイル交換時	2.5ℓ
	オイル、オイルフィルター同時交換時	2.7ℓ

※5：0W-20は、最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda純正ウルトラeクーラント
規定濃度	50%
規定量	4.5ℓ（交換時：リザーブタンク0.9ℓ含む）※6 4.8ℓ（交換時：リザーブタンク0.9ℓ含む）※7

※6：4WD車
※7：2WD車

■最大積載量

350kg（2名乗車時）
250kg（4名乗車時）

■タイヤ

サイズ	145R12-8PR LT
空気圧 kPa（kgf/cm²）	前輪 220（2.2）
	後輪 450（4.5）
リムサイズ （スチールホイール）	12×3.50B

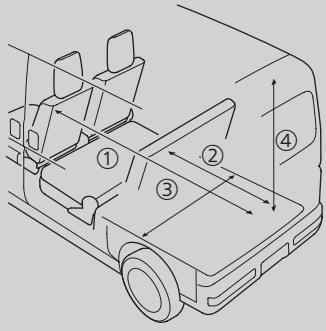
■カーゴスペース寸法図

①：1,720mm※

②：920mm

③：1,240mm

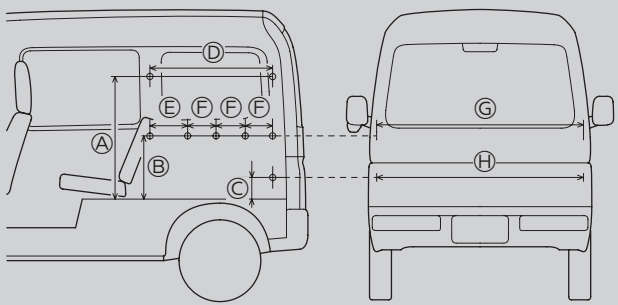
④：1,180mm



※フロントシートは一番後ろで背もたれを最も立った状態の寸法です。

■ユーティリティーナット配置図（テールゲート除く）

Ⓐ：735mm
Ⓑ：480mm
Ⓒ：180mm
Ⓓ：775mm
Ⓔ：330mm
Ⓕ：160mm
Ⓖ：1,335mm
Ⓗ：1,280mm



仕様

記載は寸法値です。取り付けるものの寸法と車の寸法を必ず確認して取り付けてください。

索引

数字

4WD（四輪駆動機構）……103

A

ABS（アンチロックブレーキシステム）……106
　ABS警告灯……39, 106
A/C（エアコン）……78
AM/FM ラジオ……85
　各部の名称……85
　基本操作……86
　ラジオの使いかた……87
AT（オートマチックトランスミッション）……97

E

EPS警告灯……40, 164

M

MIST……60
MT(マニュアルトランスミッション）……102

P

PGM-FI警告灯……38, 163

S

SRSエアバッグ……25
　エアバッグシステム警告灯……28, 39

W

W（ワット）数……171, 172

ア

アイボルト……146
安全に関する表示……16
安全のための確認事項……19
アンチロックブレーキシステム（ABS）……106
　ABS警告灯……39, 106
アンテナ……84
　マニュアルアンテナ……84

イ

一酸化炭素の危険……36

ウ

ウィンカースイッチ（方向指示器）……59
ウィンドウォッシャー
　ウィンドウォッシャー液の補給……122
　ウィンドウォッシャースイッチ……60
ウィンドーの開閉……55
ウェアインジケーター……134
運転
　エンジンの始動……92
　シフト操作……98, 100
　ブレーキ操作……104

エ

エアコン……78
　エアコンの使いかた……79
　窓の曇りや霜の取りかた……82
　モード切り換えダイヤル……79
　冷媒量点検……140
エアバッグ……25
　SRSエアバッグ……25
　エアバッグシステム警告灯……28, 39
　エアバッグシステム故障診断記録装置……16
　エアバッグのお手入れ……29
エンジンオイル……122
　推奨エンジンオイル……122, 171, 173
エンジンオイル注入口……121
　油圧警告灯……38, 162
エンジンスイッチ……58
エンジンの始動……92
　エンジンが始動しない……156
　ジャンプスタート……157
エンジンルームリッド……119
エンジン冷却水……171, 173

オ

追越合図（パッシング）……59
オーディオ装置……84
オーバーヒート……161
オドメーター……44

カ

カーゴスペース寸法図……174
鍵（かぎ）……47
ガソリン……109, 171, 172

キ

キー
キーが 0 から I に回らない 14
キーが I から 0 に回らない 14
キー閉じ込み防止装置 50
キーナンバータグ 48
キーの種類と機能 47
キーレスエントリー 47, 49, 139
キーレスエントリーでドアが開かない 14
キーレスエントリー発信器 47
電池交換のしかた 139
キー閉じ込み防止装置 50
キーナンバータグ 48
キーレスエントリー 47, 49
電池交換のしかた 139
キックダウン 97
給油 109
給油のしかた 109
燃料計 42
燃料残量警告灯 39

ク

空気圧 133, 171, 173
グラブレール 3
クリープ現象 97
車の改造 112
グローブボックス 72

ケ

計器 37
警告灯 38
ABS警告灯 39, 106
EPS警告灯 40, 164
PGM-FI警告灯 38, 163
エアバッグシステム警告灯 28, 39
高水温警告灯 40
シートベルト非着用警告灯 21, 39
充電警告灯 38, 162
ドア開閉警告灯 39
燃料残量警告灯 39
ブレーキ警告灯 38, 163
油圧警告灯 38, 162
警告灯の点灯/点滅 162
けん引 168

コ

交換
カーゴスペース照明灯電球 129
後退灯電球 126
後面方向指示器/
後面非常点滅表示灯電球 後退灯電球 126
室内灯電球 129
車幅灯電球 125
制動灯/尾灯電球 126
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯
電球 125
ハイマウントストップランプ電球 128
番号灯電球 127
ヘッドライト電球 123
工具 146
高水温警告灯 40
後退灯 126
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯 126

サ

サービス診断記録装置 16
データの開示について 16
サイドアンダーミラー 65
サンバイザー 3

シ

シートの調節 66
フロントシート 66
ヘッドレスト 70
リヤシート 68
シートベルト 20
シートベルトの着用 20
シートベルトの点検 23
シートベルト非着用警告灯 21, 39
シートベルトプリテンショナー 21
シートベルトリマインダー 21
妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた 23
シガレットライター 74
時刻の設定 46
室内装備品 72
室内灯 71
指定燃料 109, 171, 172
シフト操作 98, 100
車外の清掃 143
ジャッキ 146, 151

ジャッキハンドルバー.....146, 152
ジャッキハンドル（ホイールナットレンチ）.....146, 152
車内の清掃.....141
車幅灯.....125
充電警告灯.....38, 162
仕様.....171, 172

ス

スイッチ操作
エンジンスイッチ.....58
ヘッドライトレベリングダイヤル.....62
方向指示器（ウィンカースイッチ）.....59
ライトスイッチ.....59
リヤデフロスタースイッチ.....63
ワイパー/ウォッシャー.....60
スノータイヤ.....136
スパークプラグ.....171, 172
スピードメーター.....42
スライドドアの開閉.....53

セ

清掃.....141
制動灯.....126
セレクトポジション.....98, 100
セレクトポジション表示灯.....41
セレクトレバー
セレクトレバーが動かない.....160
セレクトレバーの操作.....99, 101
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯.....125

タ

タイヤ.....133
ウェアインジケーター.....134
指定空気圧.....133, 171, 173
タイヤとホイールの交換.....134
タイヤの点検.....133
タイヤのローテーション.....135
冬期のタイヤ.....136
パンク.....147
タイヤチェーン.....136
タコメーター.....42

チ

チェーン.....136
チェンジレバーの操作.....102
チャイルドシート.....30
ジュニアシート.....35
乳児のチャイルドシート.....31
幼児のチャイルドシート.....31

テ

低水温表示灯.....41
テールゲートの開閉.....52
デフロスター
リヤデフロスタースイッチ.....63
点火プラグ.....171, 172
電池交換.....139

ト

ドアの施錠と解錠.....47
キーナンバータグ.....48
キーの種類と機能.....47
キーレスエントリー.....49
キーレスエントリー発信器.....47
車内での施錠/解錠.....51
ドアミラー.....64
冬期のタイヤ
スノータイヤ.....136
タイヤチェーン.....136
時計.....46
トラブルシューティング
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る.....15
エンジンが始動しない.....156
オーバーヒートした.....161
キーが 0 から I に回らない.....14
キーが I から 0 に回らない.....14
キーレスエントリーでドアが開かない.....14
警告灯が点灯/点滅した.....162
けん引してもらいたい.....168
セレクトレバーが動かない.....160
ハイオクガソリンは使える?.....15
パンクした.....147
ヒューズが切れた.....165
ブレーキを踏むと音がする.....15
ブレーキを踏むと振動する.....14
トリップメーター.....44
ドリンクホルダー.....73

ネ

燃料 109, 171, 172
燃料計 42
燃料残量警告灯 39

ハ

パーキングブレーキ 104
排気ガスの危険性 36
灰皿 74
ハイビーム 59
ハイビーム表示灯 41
ハイマウントストップランプ 128
ハザードスイッチ ..... 表紙ウラ
発炎筒 1
パッシング 59
バッテリー
ジャンプスタート 157
充電警告灯 38, 162
容量 171, 172
パワーウィンドーの開閉 55
パンク 147
番号灯 127
ハンドルロック 58

ヒ

ヒーターマニュアル式エアコン 79
非常点滅表示灯スイッチ ..... 表紙ウラ
尾灯 126
ヒューズ 165
各ヒューズの装備と容量 166
ヒューズの設置場所 165
ヒューズの点検と交換 167
表示灯 41
セレクトポジション表示灯 41, 99, 101
低水温表示灯 41
ハイビーム表示灯 41
方向指示器表示灯 41

フ

ブースターケーブル 157
ブザー
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 15
ブレーキシステム 104
ABS（アンチロックブレーキシステム） 106
パーキングブレーキ 104
フットブレーキ 105
ブレーキ警告灯 38, 163
ブレーキを踏むと音がする 15
ブレーキを踏むと振動する 14
ブレーキフルード 171, 172
ブレーキ警告灯 38, 163
フロントシート 66
フロントシートヘッドレスト 66

ヘ

ヘッドライト 123
追越合図（パッシング） 59
電球の交換 123
ハイビーム 123
ハイビーム表示灯 41
ロービーム 123
ヘッドライトレベリングダイヤル 62
ヘッドレスト 70
フロントシート 66

ホ

ホイールナットレンチ（ジャッキハンドル） 146, 152
方向指示器（ウィンカースイッチ） 59
方向指示器表示灯 41
ホーンスイッチ ..... 表紙ウラ
ボンネット内とその他のメンテナンス 116
ウィンドウォッシャー液の補給 122
推奨エンジンオイル 122
ボンネット内とその他のメンテナンス項目 116
ボンネットを開ける 118
リッドの取り外し 119
冷却水の点検と補給 161

マ

マニュアルウィンドーの開閉 57

ミ

ミラー 64
サイドアンダーミラー 65
ドアミラー 64
ルームミラー 64

メ

メーター 42
スピードメーター 42
タコメーター 42
燃料計 42

メンテナンス.....113
キーレスエントリー.....47, 49, 139
清掃.....141
タイヤの点検と整備.....133
ボンネット内のメンテナンスとその他のメンテナンス.....116
メンテナンスを安全に行うために.....115
ライト類の点検と整備.....123
ワイパーブレードラバーの点検と整備.....130
メンテナンスリッド.....120

モ

モード切り換え（エアコン）.....79

ユ

油圧警告灯.....38, 162
ユーティリティーナット.....75
市販品の取り付けかた.....77
ユーティリティーナットの位置.....75
ユーティリティーナット配置図.....174

ヨ

四輪駆動機構（4WD）.....103

ラ

ライトスイッチ.....59
追越合図（パッシング）.....59
ハイビーム.....59
ハイビーム表示灯.....41
ロービーム.....59
ライト類の点検と整備.....123
カーゴスペース照明灯電球.....129
後退灯電球.....126
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球.....126
室内灯電球.....129
車幅灯電球.....125
制動灯/尾灯電球.....126
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯電球.....125
ハイマウントストップランプ電球.....128
番号灯電球.....127
ヘッドライト電球.....123
ラジエーター.....161

リ

リザーブタンク.....161
リッドの取り外し.....119
エンジンルームリッド.....119
メンテナンスリッド.....120
リムサイズ.....171, 173
リヤシート.....68
リヤデフロスタースイッチ.....63

ル

ルームミラー.....64

レ

冷却水.....161
オーバーヒート.....161
高水温警告灯.....40
低水温表示灯.....41
補給.....161
冷媒量点検窓.....140

ロ

ロービーム.....123

ワ

ワイパー/ウォッシャー.....60
ワイパーブレードラバー.....130

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず、Honda 販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新の Honda 販売店を検索することが可能です。
Honda ホームページ　http://www.honda.co.jp/
（Honda ホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください）

携帯電話からは、携帯電話用 Honda ホームページをご覧ください。
http://dream.honda.co.jp/dealerlocator/

※：QR コード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右の QR コードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00
〒351-0188　埼玉県和光市本町8－1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、車両番号、登録年月日
② 車種名、タイプ名、走行距離　③ ご購入年月日　④ 販売店名